



せんなんのたからもの 活用のごあんない

平成21年度版

泉南市教育委員会

市内資源発見活用事業に伴う

せんなんのたからもの活用のごあんない

平成21年度版

2009年4月発行

編集・発行

泉南市教育委員会生涯学習課

〒590-0059

大阪府泉南市樽井1-1-1

はじめに

今日、魅力ある地域が多数あります。魅力を感じるのは、その地域の住民であったり地域外の人々であったりしますが、その地域の魅力とはそれぞれの地域内にある何らかの「資源」をうまく「活用」した結果であるとはいえないでしょうか。

たとえば、毎年地域をあげての祭りがあるとします。開催にむけての準備や話し合いを通じて、地域内のまとまりがかたちづくられることでしょう。その祭りが継続され、魅力的な祭りになるとします。次第にその祭りは地域外からの注目を集めるようになり、魅力を感じた外部からの見物客がふえることとなります。外部からの見物客、つまり地域外からの注目が集まれば、祭りの主催者である地域の人々は地域への誇りや愛着（魅力）をもつことにつながります。さらにこの地域では、祭りが続く限り地域への誇りや愛着（魅力）が地域の人々の間で共有され続けることでしょう。

祭りとは「地域の資源」であり、毎年継続して開催することは「活用」とも言い換えることができます。地域の資源をうまく活用している例の多くが、「文化財」にその資源を求めています。地域の文化財を活用することは、地域にとってなすべきことのひとつなのかもしれません。

資源の用途や資源としての価値は、固定化されたものではありません。既存の資源でもあらたな活用方法さえみつかれば多様な用途が期待され、これまで不必要だと思っていたものでもあらたな資源としての活用方法が見出されることもあるからです。

それでは、市内にはどのような「資源」があるのか発見してみませんか。発見した資源をどのように「活用」すればよいのか、考えてみませんか。

地域の資源が我々にとってどのように役に立つものなのか、将来にわたって如何に扱うべきなのか、いっしょに考えてみませんか。

決して私たちの意見を押し付けるつもりはありません。この事業をきっかけに、みなさんと共通認識を持つことができれば考えるからです。

泉南市教育委員会

1. 市内資源発見活用（せんなんのたからもの）事業の一環として発行するものです。
2. 本書に掲載されている「せんなんのたからもの」は、すべて持ち主の方が所有しているものです。
3. 本書は、平成 21 年 3 月 27 日までに応募のあった 291 件をまとめたものです。
4. 本書は、「せんなんのたからもの」の情報をひろく公開することで、本書をご覧になる皆様による主体的な活用を促すことを目的に発行するものです。
5. 本書における「せんなんのたからもの」の分類は、国立民族学博物館翻訳・発行 1988『文化項目分類』を参考にしました。
6. 本書と同様の内容を、泉南市ウェブサイトの埋蔵文化財センターのページ（<http://www.city.sennan.osaka.jp/~maibun/maibun-top.htm>）でも公開しています。
7. 本書に掲載されている応募物件について、次の方々からご協力、ご指導を賜りました。記して感謝いたします。
磯部武志さん（大阪府環境農林水産総合研究所）、風間美穂さん・高田雅彦さん・武 修次さん・藤田吉広さん・渡邊克典さん（きしわだ自然資料館）、中井正明さん（なにわことばのつどい）、浜田真義さん（舞鶴市教育委員会）、宮田克成さん（歴史館いずみさの）

市内資源発見活用（せんなんのたからもの）事業について

1. 目的

泉南市に関連する文化遺産（広義の文化財＝せんなんのたからもの）の価値を最大化させることです。

2. 目標

住民と行政が、文化遺産の活用を通して文化財保護の必要性を共有することです。

3. 見込まれる効果

住民が地域への誇りを持つきっかけを提供することで、市域の活性化が見込まれます。

4. 事業のすすめ方

本事業は平成 17 年度から開始しました。現在 3 つの段階にわけて事業をすすめ、各段階ごとに目標を設定しています。

〔段階 1 文化財の認識をひろめる〕

「せんなんのたからもの」を公募します。「せんなんのたからもの」とは、時代や価値などの基準は設けず、
①泉南市に関係するもので、②所有する人が大切だと思い、③活用したいとつよく思うものです。

〔目標〕

- ・住民に「せんなんのたからもの（広義の文化財）とは何か？」を考えるきっかけを提供する。
- ・「せんなんのたからもの」を公開する方法や活用方法について、所有者や利用者の要望を把握する。

〔段階 2 情報を共有する〕

応募のあった「せんなんのたからもの」を随時閲覧可能な状態で公開することで、ひろく活用をうながします。
公開する手段は、前段階で把握した所有者や利用者の要望を反映します。

〔目標〕

- ・利用者による主体的な活用をうながし、地域の宝としての認知をひろめる。
- ・利用者の意見をもとに、より具体的な活用形態を把握する。

〔段階 3 利用者が活用しやすい環境をつくる〕

前段階で把握した具体的な活用形態を実現するために、エコミュージアム化など「せんなんのたからもの」を利用者が主体となり活用できる環境づくりをおこないます。

〔目標〕

- ・活用をきっかけとした人間関係の構築をうながし、維持発展させる。
- ・泉南市独自のマイルールを作る。

本書掲載の「せんなんのたからもの」の活用について

1. 本書に掲載されている「せんなんのたからもの」の活用とは、教育・生涯学習・地域活動の素材として、グループや個人が利用することをいい、活用方法は持ち主の承諾さえ得られれば特に制限はありません。
2. くわしくは、泉南市埋蔵文化財センターまでお問い合わせください。

〔問合せ先〕

泉南市埋蔵文化財センター

〒 590-0505 大阪府泉南市信達大苗代 374-4 電話番号 072-483-6789

メールアドレス maibun@city.sennan.lg.jp

自然



180402 和泉の壺石

置物。褐鉄鉱の塊で、空洞がある。

由來する地区 信達岡中

年代 昭和 30 年代に採取

地区の竹藪でよくみつかったとか。専門家によると泉南地域の大坂層群 (300 万年前の地層) でみられるもので褐鉄鉱ともいいます。古来は医

薬品。奈良時代には、舶來の医薬品として光明皇后が東大寺・正倉院に献納しています。



171102 バベの木

樹木

由來する地区 男里

年代 樹齡 250 年以上 (所有者談)

バベは、ウバメガシの別名。幹の太さは約 1.3m、高さ約 5 m。持ち主によると「今

住む家に先祖が植えたものと聞いているので、少なくとも樹齡 250 年以上になるのでは」とのことです。



170205 ツツジの老木

樹木

由來する地区 信達牧野・葛畑

年代 樹齡 200 年以上 (所有者談)



170207 ウバメガシの老木

樹木

由來する地区 信達牧野・葛畑

年代 樹齡 200 年以上 (所有者談)

持ち主の曾祖父が明治時代に庭に植えたもので、持ち主の方いわく、「樹齡は 200 年を超えるのではないか」とのこと。堀河地区にあった旧宅からわざわざ移植。今も大事にされており、手入れに来る植木職人さんもその立派さにびっくりするほどだとか。

180601 ナウマンゾウの化石

紀淡海峡産の大腿骨と臼歯

由來する地区 加太

年代 3-7 万年前

市域を含む泉南地域は化石の産地として有名。ただし、ナウマンゾウの化石が見つかるのは深



い海の底。紀淡海峡で操業する漁船が底引き網でナウマンゾウの化石を引き上げることがあるとか。この化石は、30 年ほど前に持ち主の祖父が知人の漁師から譲り受け、家に持ち帰ったうちのひとつ。「袋いっぱい化石にびっくりした」と当時高校生だった持ち主の父は記憶しています。その後は実家に保管したままだったのを、一昨年持ち主の父が思い出し息子に進呈。化石に興味を持った息子は、ホンモノの化石をもらった持ち主は大喜び。以後ナウマンゾウや化石のことを熱心に調べ始めたとか。親子で博物館へ出かけることも多くなり、化石がきっかけで親子のふれあう機会もふえたとのこと。



191501 タイマイくん

タイマイの剥製。2 個体あり

由來する地区 和歌山市

年代 不明

かなり以前から家にあるもの。最近になってタイマイとわかり、親子でびっくり。

191502 ふしぎなキノコ

マンネンタケか

由來する地区 史跡海会寺跡広場

年代 平成 17 年採取

公園の中で子どもが発見。その大きさが気に入り家に持ち帰る。以後 2 年ほどは正体不明のキノコだったが、最近博物館に確認したところマンネンタケの可能性が濃厚に。いまさらながら息子は大喜びしているとのこと。



170208 キンモクセイの老木

樹木

由來する地区 信達牧野・葛畑

年代 樹齡 200 年以上 (所有者談)



170206 サザンカの老木

樹木

由來する地区 信達牧野・葛畑

年代 樹齡 200 年以上 (所有者談)



201203葉っぱの化石

新家地区の山中で発見

由来する地区 新家

年代 6700 万年前

? 1970 年の「万博の年」、新家の山奥で持ち主が発見したものの。「工事現場で削岩機を使って、岩を砕いているとき見つけた」とのこと。「おもしろいなあ」と思い、当時の新聞紙に包んで保管しています。専門家によると「和泉層群で見つかる葉の化石としては非常に保存がよく貴重なもの」とのことです。



201901 新家三本松の輪切

樹木

由来する地区 新家

年代 昭和 52 年 3 月 3 日に切り倒した三本松の輪切

? 新家地区にある、幹が 3 本に分かれた大きな松の切り株。江戸時代、村内のいさかいが解決した記念に植えられたものだとか（『新家村誌』）。三本松を切り倒すことになったのは、松くい虫による立ち枯れ。そのとき持ち帰られた幹を、今も大切に保管している持ち主。ながらく家で保管していたことを、新家歴史研究会の知るところなり、専門家による鑑定の結果、年輪や生育状況などが判明。詳しくは新家歴史研究会により紹介されています（『新家歴研ニュース』2・3 号）。

ライフヒストリー



170301『八十歳の年輪』

明治生まれの著者の自叙伝

由来する地区 しんだち 信達市場

年代 昭和 50 年代まで記憶

? 幼少時の生活の様子や、太平洋戦争終戦当日の自身の体験など、川柳でつづられています。



170306『青春時代の道標』

名言・名句などをもとに道徳感などをまとめた手記

由来する地区 信達市場

年代 昭和末期までの記憶

? 名言名句などをもとに、我が子への人生訓がまとめられている。明治時代に生まれた筆者の倫理観がよくわかります。



180301むかしの辞書

辞書

由来する地区 おのさと 男里

年代 文化十年・明治三十三年に発行

? 『四聲字林集韻大全』は江戸時代、『いろは字典』は明治時代に出版された字典。持ち主の祖父のもので、「小学 2 年生の頃、いろは字典をつかって字を教わってもらっていた」とのこと。終戦直後の昭和 20 年代、商いを営んでいた大阪市内で空襲にあい、一家で泉南市内に帰って来た頃のこと。当時の人の学習に対する熱心さと、家族への思いやりを感じさせます。



ことば

181402『人に聞いても

わからない知識辞典』

親族呼称などを一覧表にした冊子

由来する地区 おのしろ 信達大苗代

年代 平成 15 年・平成 20 年発行

? 「曾祖父のお父さんは何て呼ぶの？」このような、日常のちょっとした疑問を、その都度調べてまとめた持ち主オリ

ジナルの辞典。檀家となっている宗派の系図や数詞など、平成 15 年度版に収録したのは 28 項目。

仕事の合間に作成した改訂版も昨年に完成。泉南の郷土料理「じゃこごうこ」のレシピや「ちょうど北京五輪の年なので」とオリンピックの開催地の項目を追加しています。

はやくも追加項目を調査中で、目下の課題は「食わずにわかる、旨いかぼちゃの見分け方」。「なかなかの難問」と笑いながら教えてくれました。

コミュニケーション



200401 缶テレ

携帯用のテレビ

由来する地区 しんだちおのしろ 信達大苗代

年代 平成6年に入手

? くじ運がよく「自転車やテレビも当たった」ことがある持ち主。平成5年頃、退院直後に立ち寄ったスーパーのくじ引きで当たったもの。小型のテレビですが「とても重宝した」とのこと。自宅療養のとき、枕元でいつでもテレビが見れたからです。「おかあちゃんに捨てられないか心配」と語る持ち主が元気に笑いながら教えてくれました。



180101 5球スーパーラヂオ

真空管ラジオ

由来する地区 おのさと 男里

年代 昭和20年代末に製造（現在も使用可）

? 昭和20年代に製造された、真空管ラジオ。商品名の由来は真空管が5つ付いていることから。昭和20年代、家族そろってラジオ番組を聴いた思い出深い品とのこと。当時放送されていたラジオドラマは大変な人気で、放送時間には「銭湯の客がいなくなる」ほどだったとか。家族や近所の人たちがこのラジオの前に集まり人気番組を楽しんでいた様子がうかがえます。

過去の記録



170101 故大田儀助君之碑

顕彰碑

由来する地区 岡田

年代 明治30（1898）年建立

? 酒の小売業「大田商店」を営んでいた持ち主の曾祖父が、販路拡大などの功績により、和歌山市酒造組合に建ててもらったもの。当時泉南では、酒といえば「灘」、ではなく「和歌山」だったのかも。

石碑のまわりをかこむ

柵の根元をよく見ると、鉄柱の切断面が残ります。本来あった鉄柵の跡で、切り取られた鉄柵は戦時中の昭和10年代後半に軍需用に供出されたとのことでした。



170601 渡海上人碑の拓本

碑文の拓本

由来する地区 信達岡中

年代 1990年頃に記録

? 林昌寺境内にある石碑の拓本。渡海上人碑とは、補陀落渡海碑ともいい、わずかな食料を積んだ船で観音菩薩の住む補陀落山めざし船出する捨身行「補陀落渡海」があったことを示す石碑のこと。現在確認されている数は少なく、全国的にも珍しい石碑。この拓本自体石碑以上に貴重なもの。というのも、今では風化して不鮮明な文字も、この拓本では読取れるから。持ち主の方が「補陀落渡海について根井浄さんの本が詳しいですよ」と教えてくれました。

171101 酬梅田五一君清徳碑

顕彰碑

由来する地区 男里

年代 大正5（1916）年建立

? 碑に刻まれている名は持ち主の祖父。当時の文書によると、氏は大正元年に織布工場を設立し、地域の雇用を確保した人。石碑建立の発起人は地区の人々。工場設立によって雇用を創出してもらった恩義がきっかけとか。地域に及ぼした恩に酬いる気持ちから、工場設立5年目にしてこの石碑が建てられました。





170302『明治の末期』

信達市場の屋号、共有地などを記した記録

由来する地区 信達市場

年代 明治時代末頃の記憶

? 明治時代末期の信達市場地区における各戸の屋号や、共有地内の詳しい地図と地名が記されています。

190402堀河橋の思い出

橋にまつわる思い出

由来する地区 信達葛畑

年代 昭和 40 年代以前

? ダムができる前、いつもこの橋を通っていた堀河地区にすんでいた方の、なつかしいふるさとの記憶です。



170305『花は散り人は死ぬ』

信達市場の年中行事などをまとめた記録

由来する地区 信達市場

年代 昭和初期の記憶

? 昭和初期まで信達市場の街道沿いで開催されていた「歳の市」の様子が詳しく記されています。



170303『故郷今昔傳承録』

信達市場における年中行事の記録

由来する地区 信達市場

年代 明治時代末以降の記憶

? 明治時代末期における信達市場地区の年中行事などが詳しく書かれています。



170304『暁の明星』

信達村（大苗代・市場・牧野）の小字や

公共施設などの所在の記録

由来する地区 信達市場

年代 昭和初期の記憶

? 昭和初期の信達町内（信達大苗代・市場・牧野）の小字名や、警察署など公共施設の所在が記されています。



170216 昭和初期の

アルバム

古い写真

撮影場所 馬場

年代 昭和 10 年代か

? 山之井中学校の

校庭でのひとコマ。もんぺ姿に鉢巻をした生徒たち。バレーボールでもしているのでしょうか。山之井中学校は、市立図書館の山側にありました。もとあった中部青年学校の建物を利用し昭和 23 年に開校。昭和 33 年に信達中学校と統合し泉南中学校となります。



170216昭和初期のアルバム

古い写真

撮影場所 信達市場

年代 昭和 10 年代か

? 信達市場にあった「砂川遊園」でとられたもの。隣接する「砂川奇勝」とあわせ、多くの人が訪れた観光名所のひとつ。その最寄り駅（現在の和泉砂川駅）に、「砂川」の文字がついたのもこの頃でした。



200501『吉見紡績工場現況』

樽井工場（現東洋クロス）の写真多数掲載

由来する地区 樽井

年代 大正 13 年 5 月発行

? 大正時代、市内最大の規模を誇った「樽井紡」の様子がよくわかります。



170216 昭和初期のアルバム

古い写真

撮影場所 信達牧野

年代 昭和 10 年代か

? 信達尋常高等小学校の校舎。中央にある一番背の高い建物が講堂で、その他が教室

のある校舎。当時、学校は現在の信達幼稚園の敷地にありました。後に信達国民学校、信達小学校、信達第一小学校と校名が変わり、昭和 45 年に信達小学校として現在の場所に移転します。

170216 昭和初期のアルバム

古い写真

撮影場所 信達童子畑

年代 昭和 20 年代

? 信達童子畑の里山でとれたもの。鍋の中身はとれたての松茸。当時、泉南は松茸山でも有名で、豊作不作が新聞記事になるほど。人々は毎年秋になると松茸狩りにでかけ、鍋を囲んで秋の休日を楽しんでいたようです。



190401 昭和 40 年代の結納

13 品の結納を並べた様子

撮影場所 信達葛畑

年代 昭和 40 年代

? これから嫁宅へ納めに行く前に「記念に」と婿宅

で撮られたもの。堀河地区のとある家で撮影されたもので、むかしながらの結納のようすがよくわかる写真です。

190501 泉南郡組合立信達中学校

校舎の全景

撮影場所 信達市場

年代 昭和 20 年代

? 組合立信達中学校の校舎。現在の砂川公園団地（砂川遊園



地の跡地) にありました。当時、周辺には砂川遊園地の遊具などの施設が残り、背後には砂川奇勝があるので「遊び場には困らなかった」とのこと。モダンな校舎で 3 箇所もグラウンドを持つ「自慢の母校」。昭和 23 年に設立、昭和 33 年に山之井中学校と統合し、泉南中学校となります。



190503 泉南郡組合立信達中学校の卒業写真

二宮金次郎像を背景に撮影

撮影場所 信達市場

年代 昭和 27 年

? 組合立信達中学校の卒業写真。当時、信達町と新家村の子ども達が通っていました。

当時は学校を囲む塀もなく、新家から通学する生徒は学校東側のグラウンドを通る「最短ルート」で通学していたこと、下校途中には砂川遊園地跡地にのこる遊具でよく遊んだことなど、持ち主の思い出話はつきません。目下のなぞは、写真奥の二宮金次郎像。「ぼくらの在学中は首がとれていたで」との友人の言葉がきっかけで、現在調査中だそうです。

170216 昭和初期のアルバム

古い写真

撮影場所 新家

年代 昭和 10 年代か

? 当時人気のハイキングコースだったお菊山の頂上でとられたもの。頂上で人々を待つのは、「髪結いの松」と呼ばれる松の大木と、堀河地区の人々が売るラムネだったそうです。木陰でベンチに座りラムネを飲む男女の目には、砂川奇勝の見事な景観がひろがっていたのかも知れませんね。



170216 昭和初期のアルバム

古い写真

撮影場所 信達市場か

年代 昭和 10 年代後半か

? 大勢の人が谷間を開墾する前で、軍服らしき服を着た男性がこちらを向いています。おぼの持っていた写真で、詳しいことはよくわからないようですが、「おそらく砂川のあたりで、戦争中のものでは？」とのこと。

190502 信達国民学校のクラス写真

現存する忠魂碑を背景に撮影

撮影場所 信達牧野

年代 昭和 21 年頃

? 信達国民学校のクラス写真。現在の信達幼稚園敷地にありました。写真後ろの石碑は、

今も幼稚園の敷地内に残っています。この写真がきっかけで、校舎の屋根裏で遊んだことや昭和 22 年になるまで運動会がなかったことなど、友人たちとの思い出話が花が咲いたとのこと。なかでも「二宮金次郎があったかどうか？」は人によって記憶は様々。結論は出てませんが、現在の信達小学校には「昭和 14 年」と銘がある二宮金次郎像が今も残ります。



190601 仲良し友達

幼馴染と持ち主の自宅前で撮影

撮影場所 信達市場

年代 昭和 15 年頃

? 「名づけて仲良し友達、なによりもこの写真は私達の言葉です」と持ち主は話してくれました。馬乗りや鬼ごっこをしたり、自然のなかを走り回ったり、けんかをしたりした楽しい思い出。子守りのときは尋春橋から電車を眺め「この電車に乗ればどこまでいけるのだろうか」といつも想像していたことや、この写真を撮影してくれた大阪市内にすむ「ハイカラ」なおじさんの話など。様々な「言葉」が心の中をよぎるそうです。

190602 新家三本松

虫害により切り倒す直前に撮影

撮影場所 新家

年代 昭和52年3月3日

? 「新家の三本松」とは江戸時代、新家の村々のいさかいが解決した記念にと植えられたものとされます。写真は、当時区長をしていた持ち主が、「三本松」を切り倒す直前に「記念に」と撮影したもの。地区にゆかりの深い三本松を、切り倒すきっかけになったのは松くい虫。当時泉南でも大発生し、この三本松も立ち枯れに。区長をはじめ住民で相談した結果、切り倒すことになったものの、地区の人たちは三本松を切り倒すのが惜しく、切り株を家に持ち帰った人もいたほど。今でも、その切り株は残っており、地区の人々に大切にされています。



190603 信達町役場で仕事する人

役場内で撮影

撮影場所 信達市場 しんだち

年代 昭和17年頃

? 信達町役場の建物内で撮られた写真です。役場は、現在の信達市場老人集会所にありました。持ち主の記憶によると、役場の建物は「普通の家と変わりがなかった」そうです。仕事をしている男性は、持ち主の父。いつも着物を着て役場に出勤していたことや、父の着物を洗い伸子張りを手伝ったこと、家が近くだったのになぜか毎日弁当を届けに行っていたことなど、父の思い出をひも解く一枚だそうです。



190604 信達国民学校の集団登校

校門前に集合する様子を撮影

撮影場所 信達牧野

年代 昭和19年

? 信達国民学校の登校風景。持ち主自身も戦時中に集団登校したことがあり、その様子を教えてくださいました。校区が東西に細長いので、東西ふた手のグループに別れて登校。東側は、まず大苗代地区の児童が広場に集まり次第出発。その行列に、集合場所に集まった市場の生徒が加わり学校へ向かいます。西側も、岡中の行列に牧野地区が加わり学校へ。通学ルートは大名行列も通った紀州（熊野）街道沿いでした。最後に、東西いずれのグループとも校門前にそろったら、ラッパなどを吹きならし校門をくぐるそうです。



190702 雄信小学校の入学写真

旧校舎を背景に撮影

撮影場所 男里

年代 昭和27年4月

? 雄信小学校の入学式のときに撮影されたもの。写真左手の瓦葺建物は職員室。そこから伸びるトタン屋根の渡り廊下は、講堂へつながっていました。



— 我らの学び舎 泉南中学校 —

190701 昭和橋の架け替え工事

工事の様子を撮影

撮影場所 男里 おのさと

年代 昭和39年

? 写真の持ち主によると、昭和橋の写真ではないかとのこと。昭和橋は、男里川にかかる橋のうち海側から数えて3本目、南海電鉄と旧国道26号線の間にかかる橋。この写真は、それまで木製だった橋をコンクリート製のものに架け替えたときの写真とのこと。



190703 泉南中学校の創立記念絵葉書

カラー写真を用いた絵葉書

撮影場所 樽井

年代 昭和34年発行

? 『泉南市史』によると「当時としては府下随一の計画ともいわれた」新築の中学校。泉南町発足すぐに町立山之井中学校と、町立信達中学校を統合したもの。写真は創立記念の絵はがき。多くの人々の期待がうかがい知れます。

190707 昭和 30 年代の砂川奇勝

奇勝遠景
しんたち
撮影場所 信達市場
年代 昭和 36 年



190705 砂川遊園地跡にのこる
ブランコ

ブランコで遊ぶ高校生を撮影
撮影場所 信達市場
年代 昭和 36 年



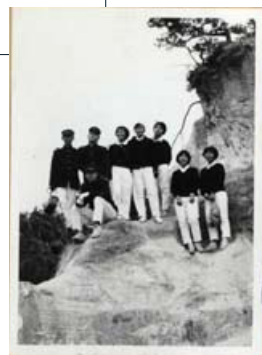
? 遊具で楽しげに遊ぶ高校生。砂川遊園地の跡地に残る遊具や、砂川奇勝で撮影された写真。遊園地敷地内には、昭和 40 年代に住宅地として開発されるまで、遊具などの施設が残り、往時の雰囲気の色濃く残っていたようです。

190706 砂川遊園地跡にのこる飛行機

飛行機形の遊具を背景に撮影

撮影場所 信達市場

年代 昭和 36 年



190704 砂川奇勝での記念写真

高校生数人が奇勝を背景に撮影

撮影場所 信達市場

年代 昭和 36 年



190801 ジェーン台風の被害

被災した工場の様子を撮影

撮影場所 樽井

年代昭和 25 年前後

? 昭和 25 年 9 月 3 日、泉州南部にジェーン台風が接近。持ち主の父が経営する工場は、建物すべてが倒壊。寄宿舎の屋根のスレートは 100m ほど離れた民家の壁に突き刺さっていたそうです。後片付けに数ヶ月を要したとのことですが、付近で被害にあったのは持ち主の工場のみだったとのこと。写真は被害にあう前と、その直後にとられたもの。「人災がなくてよかったと思う一方、台風の威力を思い知らされた」そうです。



190901 信達尋常高等小学校

卒業記念写真帳

卒業アルバム

撮影場所 信達牧野

年代 大正 12 年 3 月

? 信達尋常高等小学校の『卒業記念写真帳』。持ち主の父のもの。父から聞かされた話で覚えているのは、「日差しがきついときに袴をカーテンがわりにつるしていた」ことぐらい。なので「女生徒の多くがなぜ掌をすに隠しているのか?」「みんな袴姿だが体操着などはあったのか?」など、昭和 10 年代生まれの持ち主兄弟にとって、父の卒業アルバムは謎多きものだそうです。



190902 市場稲荷神社
での神楽

壇前で撮影

撮影場所 信達市場

年代 昭和 15 年か

? 昭和 15 年、紀元二千六百年を記念し日本各地で記念行事が行われました。その一環で行われた「浦安の舞」を記念して撮影したものです。この舞は、1 週間続いたそうです。

行われました。その一環で行われた「浦安の舞」を記念して撮影したものです。この舞は、1 週間続いたそうです。

190903 信達町役場の
収入役室

収入役室を撮影

撮影場所 信達市場

年代 昭和 17 年頃



? 信達町役場の写真です。役場は、現在の信達市場老人集会所にありました。役場の建物の概観は、瓦葺で「普通の家と変わりなかった」そうです。



190904 信達尋常高等小学校の卒業記念写真
校舎を背景に撮影
撮影場所 信達牧野
年代 大正時代



190905 信達尋常高等小学校の記念写真
校舎を背景に撮影
撮影場所 信達牧野
年代 大正時代

? 持ち主のおじのもの。うち1枚は「大正11年の第十四回卒業生記念」写真。女生徒の大半が掌をすそに隠しているのを見て、江戸時代生まれの持ち主の祖母も、同じような格好で写真に写っていることを思い出したとか。その後、樋口一葉も同じ格好をして写真に写っているのを発見。「当時のマナーだったんですね」と持ち主の姉は語ってくれました。



190906 御大典を祝う

仮装行列の様子
撮影場所 信達市場
年代 昭和3年か

? 「ごたいてんや ごたいてんや おめでたや」。持ち主のおばが記憶する歌です。「ごたいてん（御大典）」とは天皇即位の儀式。写真は、おそらく昭和のときのもの。昭和3年11月、信達市場の街道沿いで人々が歌いながら踊りながら仮装行列でお祝いのしたのでしょう。



191004 入野池の展望台
入野池の岸辺に設置された展望台
撮影場所 信達牧野
年代 昭和10年代か

? 当時和泉砂川駅南側の丘陵は、とてもにぎやか。別荘や料亭があり、それらを抜けて砂川奇勝へと向かう道沿いの池は、写真の展望台のほか、ボート乗り場や菖蒲が植えられていたそうです。



191002 砂川駅の桜
線路沿いの桜並木
撮影場所 信達牧野
年代 昭和17年4月4日

? 「是以上咲けるものかと さくら咲き」
撮影者が詠んだもの。裏面に記されています。



191001 砂川奇勝と砂川遊園地

遊園地と奇勝の様子を撮影したパノラマ写真
撮影場所 信達市場
年代 昭和10年頃か

? 高倉山付近から大阪湾をのぞむ風景。遠くに見える山並みは淡路島でしょうか。今同じアングルで写真を撮れば、手前には住宅地がひろがり、遠く関西国際空港が見渡せます。この写真の

持ち主は、子どもながらにカメラで近所の風景などを撮影していたとか。現像や焼付けを自分ですることもあったそうで、「かなりの枚数の写真を撮影した」とのこと。「見晴らしのよい風景を写真にしたい」と工夫をかさねた結果の作品で、3枚の写真をかさねて撮影し、ノリで貼り付けたもの。「よく考えついたものだ」とおじさんたちにほめられたことを今でもうれしそうに話してくれました。



191005 中之池のボート

池に浮かぶ貸しボート

撮影場所 信達市場

年代 昭和 10 年代か

? ボート遊びでにぎわう中之池は、地元の子どもたちにとっても絶好の遊び場。料金は 1 時間で 30 銭。手が豆だらけになるほどボートで遊んだそうです。夜中にこっそりボートに乗ったこと、カラス貝をバケツいっぱい採って帰ったこと、写真右に写る松の木から池に飛び込んで遊ぶ青年など、楽しい思い出のつまった 1 枚です。

191013 砂川周辺の丘陵

おそらく砂川周辺のもの

撮影場所 信達市場

年代 昭和 10 年代か

? 看板には、不動産会社の名前らしき文字が見えます。砂川遊園地建設をきっかけに、駅周辺はちょっとした開発ブームだったのかもしれませんが。

191006 砂川遊園地のモンキーハウス

遊園地内のサル山

撮影場所 信達市場

年代 昭和 10 年代か



191010 砂川遊園地の飛行船塔

遊園地内にあった遊具

撮影場所 信達市場

年代 昭和 10 年代か



191011 砂川奇勝

奇勝遠景

撮影場所 信達市場

年代 昭和 10 年代か



191015 おんどのりの大鳥居

交差点南側に設置していた頃のもの

撮影場所 信達牧野 年代 昭和 17 年頃か

? 「大鳥居」の交差点南側に、道路をまたいで鳥居があった頃の写真。鳥居が現在の場所に移ったのは、昭和 40 年代のこと。撮影された方によると、移設のきっかけは通行するダンプカーの振動で、台座ごと崩れたため。ちょうど交差点近くの親戚宅に居たときに鳥居が崩れたそうで「大きな音にびっくりした」と教えてくれました。



191012 砂川奇勝と料理屋

遊園地側から撮影か

撮影場所 信達市場

年代 昭和 10 年代か

? 砂川奇勝と砂川遊園地の間の道にあった料亭でしょうか。看板には「温泉」などの文字が見えます。



191007 砂川遊園地のボート池

遊園地内にあったボート池

撮影場所 信達市場

年代 昭和 10 年代か



191008 砂川遊園地のボート池

遊園地内にあったボート池

撮影場所 信達市場

年代 昭和 10 年代か



191009 砂川遊園地のボート池

遊園地内にあったボート池

撮影場所 信達市場

年代 昭和 10 年代か



191014 おんどのりの大鳥居

交差点南側に設置していた頃のもの

撮影場所 信達牧野 年代 昭和 17 年頃か



191016戦時中の防火訓練
しんだち
 信達牧野で実施されたものか
 撮影場所 信達牧野
 年代 昭和 17 年頃か



191017戦時中の防火訓練
 信達牧野で実施されたものか
 撮影場所 信達牧野
 年代 昭和 17 年頃か



191018戦時中の防火訓練
 信達牧野で実施されたものか
 撮影場所 信達牧野
 年代 昭和 17 年頃か



191019戦時中の防火訓練
 信達牧野で実施されたものか
 撮影場所 信達牧野
 年代 昭和 17 年頃か



191022戦時中の防火訓練
 信達牧野で実施されたものか
 撮影場所 信達牧野
 年代 昭和 17 年頃か



191023戦時中の防火訓練
 信達牧野で実施されたものか
 撮影場所 信達牧野
 年代 昭和 17 年頃か



191020戦時中の防火訓練
 信達牧野で実施されたものか
 撮影場所 信達牧野
 年代 昭和 17 年頃か



191021戦時中の防火訓練
 信達牧野で実施されたものか
 撮影場所 信達牧野
 年代 昭和 17 年頃か

? 信達牧野の紀
 州（熊野）街
 道沿いで撮影された
 写真です。撮影され
 た方によると、戦時
 中の防火訓練を撮影
 したものではこのこ
 とです。



191024兵隊さんの運動会

パン食い競争か

撮影場所 不明

年代 昭和 10 年代か

? 白い服を着ているのは傷病兵。「パンくい競争」
 でしょうか。和やかな雰囲気の 1 枚です。



191025戦時中の女のひと

もんぺ姿の集合写真

撮影場所 信達牧野

年代 昭和 17 年頃か

? もんぺ姿での明るい笑
 顔が印象的です。



191028 天皇陛下下賜の品

4 品（「ハクセンコ」・包帯・タバコ・不明）

撮影場所 不明

年代 昭和初期か

? 知人からもらった写真。「誰がどの
 ようなきっかけでもらったのかよ
 くわからない」とのことです。



191103風吹峠を越えて

白浜への新婚旅行途中の写真

撮影場所 市内

年代 昭和 14 年か

? 白浜への新婚旅行でのひ
 かざふき
 とコマ。歩いて風吹峠を
 こえるときに撮影されたもの。



191026梅の花

梅の花を接写

撮影場所 市内

年代 昭和初期か



191027ボートから

ボートから山並みを撮影

撮影場所 なかの 中之池

年代 昭和 10 年代

191102 たわが 種河神社での結婚式

拝殿前での集合写真

撮影場所 新家

年代 昭和 14 年 11 月 18 日

? タキシード姿の新郎に、着
 物姿の新婦。70 年近く前の
 写真ですが、今と変わらぬよう
 な気がしませんか。





191301昭和26年頃の砂川奇勝

砂川奇勝の写真。二枚継ぎのパノラマ

撮影場所 信達市場

年代 昭和26年頃

? 持ち主「自慢の一枚」で、砂川奇勝の景観がわかる写真。写真が趣味の持ち主も、当時は「あえて撮ろうとは思わなかった」とか。子どもの頃から「砂山」と呼び親しんだ遊び場のひとつで、「べつに珍しいものとも思わなかった」ためです。「砂山」も現在はわずかに残るのみですが、砂川公園ですべり台を背に高倉山方面を眺めると、目の前に写真と同じ小山の一部が確認できます。



191302 昭和38年頃の砂川奇勝

砂川奇勝の写真

撮影場所 信達市場

年代 昭和38年頃



? 市外に住む会社の同僚を招き、砂川奇勝でピクニックや月見をすると、「とても好評だった」そうです。大学生が砂川奇勝のことを調べに来たときは、熱心に質問する姿に感激し、現地を案内してまわったそうです。



191105子守ふごの赤ちゃん

子守ふごに入る赤ちゃん

撮影場所 中小路

年代 昭和17年1月7日

? 昭和初期に購入したもので、「親子2代にわたりお世話になった」そうです。子守ふごは、保温性と通気性がよく丈夫。20年ほど前、末っ子が藁をちぎっては口に入れるのでやむなくお役ごめんとなったそうです。

191303 秋のおいけ

入野池（おいけ）の写真

撮影場所 入野池

年代 昭和38年頃

? 入野池の東側から撮影したもの。「おいけ」とは入野池のこと。



「小さいときからの呼び名」で、大きい池がなまって「おいけ」になったのではないかとのことです。



191106 戦前の乳母車

乳母車に入る赤ちゃん

撮影場所 不明

年代 昭和17年4月29日

? 伝統的な子守ふごが使われていた当時、乳母車も活躍していたようです。今のベビーカーより大きく開放的なので、赤ちゃんもにこやかなような気がします。



191104おじの出征

持ち主の自宅前で撮影

撮影場所 中小路 年代 昭和16年4月15日



191101 中小路の古文書

代々伝わる中小路の古文書

由来する地区 中小路

年代 元禄三（1690）年以降のもの

? 持ち主の家に代々伝わる古文書のうちのひとつ。この絵図にある「天神」という文字をみて、子どもの頃、「むかし中小路には天神さんがあった」という言い伝えや、家のそばを流れる「天神川」は「とてもきれいな水」でホタルもいたこと、魚とりをして遊んだこと、シジミがたくさんとれたことなど、地域の記憶を思い出すとのことです。



191701 新家国民学校の写真

校門から撮影した写真

撮影場所 新家

年代 昭和初期か

? 写真右側に写る校舎は、入学したての1年生の教室。校舎の奥には、運動場がひろがります。持

ち主が入学した当初は「戦争の真っ最中」。毎朝の登校は、上級生を先頭に一列に並んでの集団登校。この頃、泉南市内でも艦載機による空襲がたびたびあったためです。空襲を知らせる警報が鳴り響いた場合は、防空頭巾をかぶり、授業を中断して集団で下校。「警報が鳴ると家に帰れるのでうれしかった」と子どもながらに思っていたそうです。

200101 大正 14 年の樽井の砂浜 岸和田中学校生の記念写真

撮影場所 樽井 年代 大正 14 年撮影



? 当時樽井の浜辺には、松林ときれいな砂浜がひろがっ

ていたそうです。そばには料亭もあり、松林で弁当をひろげる家族づれなど、行楽客でにぎわっていたようです。ちなみにこの写真の撮影場所は、「たぶん自動車教習所北側」ではないかとのこと。ちなみに昭和 20 年代生まれの持ち主にとって、夏の遊び場といえばこの浜辺。「この松の根元に服を脱ぎ捨て、フンドシいっちょ」で海に飛び込んでいたとか。当時は海がとてもきれいで、泳ぎながら海底をのぞくと「きれいな砂の上を泳ぐガッチョなどの姿が見えたほど」。浜辺は遠浅で、沖合いには「いちのせ」「にのせ」と呼ばれる背の立つ浅瀬があり、いつも友だちと「どこま

で泳げるか競い合った」とのこと。「にのせ」まで泳げることを目標に、毎年夏が来るのを楽しみにしていたそうです。

200103 男里の火葬場

火葬場の写真

撮影場所 男里

年代 昭和 46 年撮影



? 持ち主によると子どもにとって、絶好の遊び場だったとか。茂る木々には「セミやカブトムシがたくさんいた」とのこと。屋でもうっそうとしていたので「肝だめしもやった」そうです。施設が老朽化したことなどから現在は取り壊されています。



190307 昭和 10 年の

雄信達尋常高等小学校卒業

記念写真帳

旧校舎や校門など

撮影場所 男里

年代 昭和 10 年

? 立派な校門をくぐると、応接室のある校舎があったこと。中

庭には、大きな榎があり井戸の水がおいしかったこと。恩師や同級生との思い出、当時の暮らしなど、懐かしい思い出が詰まった写真帳です。

190306

大正 12 年の雄信達

尋常高等小学校

卒業記念写真帳

テニスをする姿等撮影

場所 男里

年代 大正 12 年



200102 大正時代の男神社

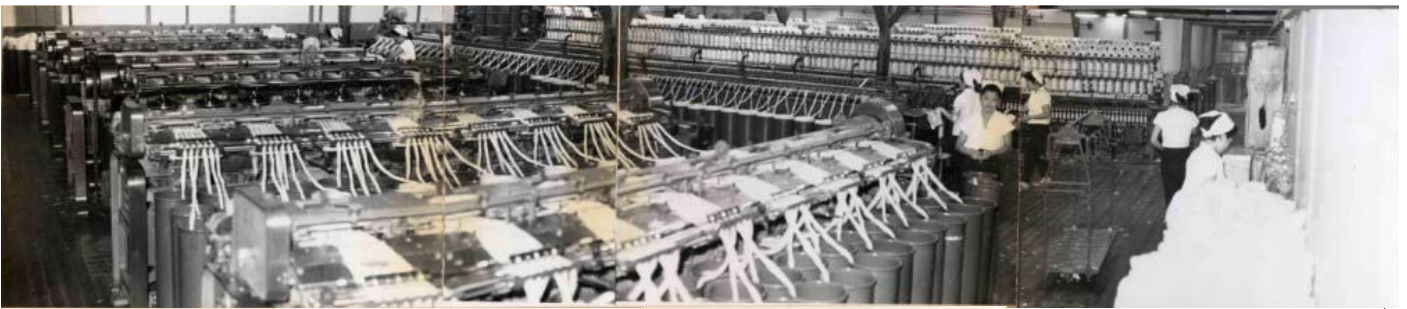
拝殿前での写真

撮影場所 男里

年代 大正 9 年撮影

? 雄信達村での国勢調査の記念に撮影されたもの。当時の村長や収入役、宮司さんや巡査が並びます。





200302 紡績工場のアルバム

紡績工場での工程がわかる写真

撮影場所 樽井

年代 昭和 30 年代

? 紡績工場が工程を撮影したもの。紡績業が最盛期だった頃の写真。原綿を繊維をそろえ（混打綿）、次に棒状にし（梳綿・カード場）、細く引き伸ばし（練条）、撚りをかけます（粗紡・精紡）。忙しい時は 24 時間操業し、3 交代制だったとのこと。

200503 樽井紡績の煙突

工場建設中の写真か

撮影場所 樽井

年代 大正 8 年頃か



? 煉瓦造りの基礎のむこうに立つ、大きな煙突。「樽井紡」の建設工事中的写真です。写真が撮影されたのは、樽井駅の北隣。今も工場が操業しており、当時の煙突やレンガ造りの建物が一部残ります。「樽井紡」とは、樽井紡績株式会社のこと。大正 8 年、城野伊三郎氏をはじめとする地元の出資と熱心な誘致により設立された、大規模な紡績工場。大正十年代の記録（吉見紡績と合併後）によると、生産高は岸和田以南で 4 番目の規模。紡機は一万錘で織機は 420 台、従業員は千人以上。ちなみに明治時代末の樽井村の人口は、二千人ほど。樽井紡績の設立により村は一変したことでしょう。この後、市内各地で紡績業が盛んになり、昭和 30 年代には絶頂期を迎えます。この煙突は、「糸へん」の時代の幕開けを告げるモニュメントといえるのではないのでしょうか。





? 樽井駅を和歌山側から撮影したもの。駅北側の工場がないことから大正8年以前に撮影したものか。駅のホームには電車が停車しており、当時の車両の様子がよくわかる。



? 樽井駅のホームを南側から撮影したもの。後ろに見えるのは、料亭「湖月」。湖月の横に工場が写っていないことから、大正8年以前に撮影されたものか。



縁側で猫とたわむれる子どもたち。



大きな庭の片隅で腕を組む少年。



? 手ぬぐいを頭に巻いて海水浴をする子どもを見守る女性。樽井紡績の栈橋が見え、その向こうには、煙突が幾本も写る。当時盛んだった紡績工場かレンガ工場の煙突か。



? 浜辺の船置き場があった付近を撮影したもので、当時の浜辺の様子がよくわかる。



縁側でオルガンを前に微笑む少年。

? 持ち主の親類のもの。大正時代から昭和初期にかけての樽井の町並みや人々の暮らしがよくわかる。

200502 大正時代のアルバム
樽井駅前・樽井の砂浜・当時の風俗などが判る写真
撮影場所 樽井
年代 大正時代から昭和初期



200505 湖月にて
玄関前での記念写真
撮影場所 樽井
年代 昭和10年代



200504 湖月にて
玄関前での記念写真
撮影場所 樽井
年代 大正時代か

? 樽井の砂浜は、松林のむこうに遠浅の海がひろがる「見事なもの」だったとか。そばには、「湖月」と呼ばれる料亭がありました。いずれの写真も、湖月の玄関前で撮影されたもの。写真の持ち主によると、海水浴でにぎわったほか、大正時代には「樽井紡設立の寄り合いがひらかれた」場所でもあるそうです。



200506 樽井の町並み
葬儀の行列
撮影場所 樽井
年代 大正時代か

? 樽井5丁目付近で撮影された写真。行列が歩くのは旧国道26号線（府道63号線）の「樽井南」交差点と、南北に交差する道。古くは根来街道として、昭和初期までは「樽井のメイン通り」としても親しまれた道です。



200507大正時代の女の人たち
持ち主自宅庭での写真
撮影場所 樽井
年代 大正時代か
? 当時の人の格好がよくわかる1枚。持ち主が今も住む庭先で撮影したものです。



200508 樽井の「おわかれ場」「おわかれ場」の落成式の写真
撮影場所 樽井 年代 昭和初期か



200509樽井の浜辺
漁船に網を積む様子
撮影場所 樽井
年代 昭和初期か



20512泉南郡会議事堂前での記念写真
泉南郡役所の議事堂前での写真
撮影場所 岸和田市
年代 大正15年以前
? 明治31年から大正15年まで、泉南郡役所という行政機関が岸和田市にあ

200509 樽井の浜辺
櫓を持つ子ども
撮影場所 樽井
年代 昭和初期か
? 昭和初期、地元の子もたちの遊びといえば樽井の浜での海水浴。写真の持ち主もその一人で、毎年夏休みに入ると、午前中に「なるべくはやく」家の手伝いをすませ、午後は毎日友達と船で沖まで漕ぎ出し海水浴をしていたとか。船といっても、学校から借りてきた「伝馬船」で、ちょうど写真のような船。当時（岸和田中学校）には4隻の伝馬船があり、夏休み期間中は「貸してくれた」そうです。ただし、樽井まで持ってくるのは自分たち。「岸和田の浜から、樽井まで3時間以上かかった」とのこと。今の世代だと、ちょっとためらうような手間隙。松林のひろが砂浜を遠くに眺めながら、船を浮かべての海水浴は、今思えば「優雅な夏休みだった」とか。



ちなみに樽井にすむお年寄りによると、漁船に網を積み込んでいる写真は「鳴滝の浜かも」とのこと。「あんぶね」と呼ばれる大型で2〜4本の櫓で漕ぐ船で、積み込んでいるのは「浜辺にローラーを置いて巻き上げるおおきな地引網」。樽井ではこのタイプの地引網漁はしなかったそうです。

200509 樽井の浜辺
浜辺の建物
撮影場所 樽井
年代 昭和初期か



200511岸和田中学校の卒業記念写真
現岸和田高校の卒業記念写真
撮影場所 岸和田市
年代 大正10年撮影
? 持ち主のおじのものです、ゲートルを巻いた中学生が時代を感じさせます。



200510昭和初期のアルバム
洋館の遠景
撮影場所 不明
年代 昭和初期か

200510 昭和初期のアルバム
店先で子どもを抱く女の人
撮影場所 不明
年代 昭和初期か



200510 昭和初期のアルバム
難波周辺の町並みか
撮影場所 大阪市内 年代 昭和初期か



200513樽井愛国交正会の記念写真

警察署長を交えたマツタケ狩りの記念写真

撮影場所 阪南市

年代 昭和初期までか

? 大正時代、樽井地区に樽井愛国交正会という団体がありました。樽井地区にある山の井遺跡には、その名を刻んだ柵が今も残ります。



200517 屋敷前での集合写真

樽井ゆかりの人が写る

撮影場所 不明 年代 大正時代か



200518 屋敷前での集合写真

樽井ゆかりの人が写る

撮影場所 不明 年代 大正時代か

? 何かの「寄り合い」のときに写したものでしょうか。



200702昭和天皇の家族写真 記念写真

撮影場所 不明 年代 昭和初期

? 写真中央は生まれたばかりの天皇陛下。出生を祝うためのものでしょうか。同世代の持ち主の家では、親子三代でこの写真を見てはあれこれ話に花が咲くそうです。



200515 吉見紡績での写真

事務所前での集合写真

撮影場所 田尻町

年代 大正時代か



200516 吉見紡績での写真

事務所前での集合写真

撮影場所 田尻町

年代 大正時代か



? 吉見紡績とは、当時「紡績王」といわれた谷口房蔵氏が設立した会社。谷口氏は当時の樽井村ともかかわりが深く、「樽井紡（績株式会社）」設立にも尽力した人。いずれも吉見紡績株式会社の本社事務所前での写真で、「樽井紡」の設立に尽力した城野伊三郎氏をはじめとする樽井村の人たちが写っています。

200514 吉見紡績での写真

事務所前での集合写真 撮影場所 田尻町 年代 大正時代か



201401『新家尋常高等小学校卒業記念写真帖』

奉安殿が写る

撮影場所 新家

年代 昭和15年発行





202101 大正時代のウラジオストック港の写真

ウラジオストック港のパノラマ写真 (5枚継ぎ)

撮影場所 ロシア・ウラジオストック 年代 大正10年頃に撮影



長さ 1.5 m ほどの立派な額に入ったパノラマ写真。裏には「露領浦潮斯徳市穂下写真館…」との押印。貿易商だった父のもの。ただし写真の由来などは「よくわからない」とのこと。「アメリカなど」海外での生活が長かったそうです。このうち、大正10年頃に数年間、一家がウラジオストックで暮らしていたことから、「そのときに父が撮影したのかも」。歴史をひもとくとロシアとは友好的な関係ばかりではありません。にもかかわらず大正時代に日本人がロシアで暮らし、写真を大事に持ち帰えるということは、そこでの生活によほどの思い入れがあったのでしょう。遠い昔の異国の写真ですが、「日露友好に役立つかも」かもしれません。



201402『新家国民学校卒業写真』

ほうあんてん
奉安殿が写る

撮影場所 新家

年代 昭和17年発行



新家国民学校とは、現在の新家小学校の前身。ご応募いただいた方の母校。朝礼の時はいつも必勝を願って天皇の住まいである「宮城(皇居)」に向かって「最敬礼」をしていたとか。「最敬礼」とは腰を90度にかがめるお辞儀のこと。今ではその言葉すら耳にしません。「奉安殿」とは、天皇皇后の写真を保管するためのもの。当時は全国各地の学校で、奉安殿のような施設がありました。写真を注意深く見ると、当時は何よりも規律を重んじる教育だったことがみてとれます。三つ揃えや着物姿で居住まいを正す先生たち。りりしい顔つきで姿勢を正す生徒たち。きちんとそろえて開けられた校舎のガラス窓。ご応募いただいた方に教えてもらって気づいたことですが、とても印象深いところです。



202301 むかしの

ひがし
東小学校の記念写真

小学校の記念写真か。

撮影場所 しんだちまん 信達金熊寺

年代 明治時代か



信達神社の参道で撮影されたもの。東小学校の前身、むつおじんしょう 六尾尋常小学校の写真か。



▼煙突に残る機銃掃射の弾のあと (いびつな黒い穴)



202202 三和煉瓦製造所の煙突

煙突解体工事の連続写真

由来する地区 中小路

年代 おそらく創業当時に建設、昭和47年頃解体



高さ 40 m ほどで、「海図に記載されるなど、航行する船舶の目印にもなった」とのこと。太平洋戦争当時はその大きさから「機銃掃射や焼夷弾でえらいめにあった」とのこと。幸い200名ほどいた従業員には被害がなかったそうです。解体のとき、「せめて写真に」と残したものです。



食料の獲得



190302 もんどりかんご

水路で小魚を獲る罠
由来する地区 男里

年代 昭和 10 年代まで使用

？ 裾を紐でしばり、入り口を流れにむけ、用水路に仕掛けます。翌日には、フナやモロコの小魚や時にはウナギが取れることもあったとか。「かごいっぱいにとれることもあった」そうです。

170405 うなぎかき

うなぎ漁の道具とその知識

由来する地区 男里

年代 昭和 20 年代に使用

？ うなぎを捕まえる道具。ため池の水が引いた冬、池底の泥にかくれるウナギをこの道具で引っ掻けて捕まえます。ウナギの隠れ家の目印は、池底に開いたふたつの穴。その間を狙うのがコツ。食用の「まうなぎ」もいなくなり、今は使っていません。



家畜

170412 藁切機

牛のえさの藁を切る道具

由来する地区 男里

年代 昭和 20 年代頃まで使用

？ 藁を細かく切り刻む道具。刃を上下させると歯車が回り、藁が次々送られてくる仕組みになっています。持ち主の父が購入したもので、押し切りするタイプより能率が良く、夜なべ仕事で牛のエサに藁を切るとき、とても助かったそうです。



農業

181103 樽井の暗渠工事の記憶

終戦直後の耕地・用水確保を目的とした、住民参加の工事

由来する地区 樽井

年代 昭和 20 ～ 21 年の記憶

？ 昭和 22 年ごろに、耕地確保と用水不足を補うため、地区の住民総出でおこなわれた工事。当時、学生だった持ち主も参加し、工事の様子を詳しく覚えています。集落北西側の海岸線までの耕作地は、高波の被害を受けることなどから、裏作には不向きだったためです。

181611 牛のブラシ

農耕用の牛の世話をするのに使った

由来する地区 信達市場

年代 50 年ほど前まで使用

？ 「農家にとって牛は家族」だった当時のもの。汗をかけた牛が風邪をひかないように、毛の生え変わりの時期に、このブラシをかけていたわっていたそうです。



181601 わら細工 ムシロ機・俵編み機などの道具と知識

由来する地区 信達市場

年代 50 年ほど前まで使用

？ 自慢の「ムシロ機」をはじめ、他にも様々な道具があります。道具のつかい方や、子どもの頃に手伝いで作ったときの思い出話、各家で飼っていた牛も蹄をいためないようにワラジを履いていたことなど、話はつきません。今でも役に立つと気付いたのは最近のこと。小学校で田植えや稲刈りなどの体験学習に協力したことがきっかけとか。現代農法での授業に不満を感じた持ち主が、ある年にこれらの道具や知識を交えて授業をしたところ、子どもたちの反応がとてもよく、先生も「はじめて知りました」と感心するほど好評だったそうです。子どもの頃に手伝いでムシロを織った覚えがある持ち主。歳は「ふご用」のものもあったとのこと。ムシロ 1 枚織るのに子どもで 2 日ほどかかったそうです。





181602 田植えの道具

縄タイプと「わく」

由來する地区 信達市場

年代 昭和 40 年代まで使用

「わく」と呼ばれる四角い木枠は、もともこの地域にあったもの。

本来は全長 4 m ほどで、稲を植えるための目印が刻まれている。「なわ」は「紀州から入ってきたものではないか」とのこと。「広い田んぼでとても使い勝手がよい」そうです。



181603 俵の道具

俵結機（左）・とますととびき（中）・くらいぬけ（右）

由來する地区 信達市場 年代 昭和 20 年代まで使用



181606 くわ

袋状の刃部。細かい用途は不明

由來する地区 信達市場

年代 昭和 20 年代まで使用



181604 千歯こき（上）と

初かき（下）

稲を取るときの道具

由來する地区 信達市場

年代 昭和 20 年代まで使用



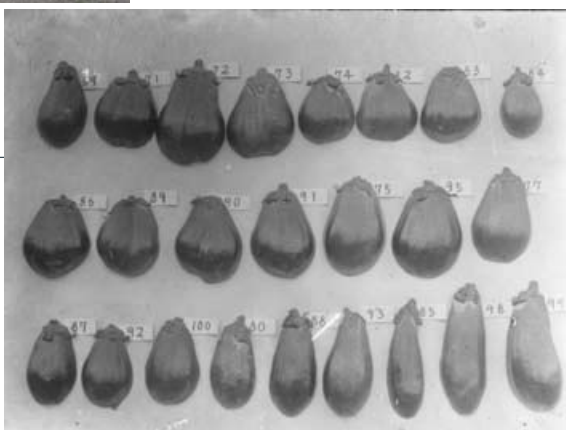
190301 きんちゃくなすの記憶

むかしながらの水ナスについての記憶

由來する地区 男里

年代 平成 10 年頃まで栽培

その昔、男里地区で「きんちゃくなす」と呼ばれる水ナスが栽培されていました。巾着形で色はきれいな紫。ヘタに近いところほど淡くなり、「なんとも美しい色」だったとか。専門家によると、現在一般的な水ナスは「絹皮」と呼ばれ、病気につよく大きさや形などが一定なのが特徴。しかし、50 年以上前の泉州水ナスは、個性豊かだったとのこと（上の写真）。大きさと形、色つやは、「極端にいうと農家ごとに違う」ほど。当時は各農家が種を取っていたため、地域色豊かな水ナスが泉州各地で栽培されていたそうです。ちなみにこれらの「個性豊か」な泉州水ナスの子孫が、新潟市ではいまやブランド野菜のひとつ。「梨ナス」などと呼ばれ、形は「きんちゃくなす」と同じ巾着形。昭和初期に泉州水ナスのタネをもとに栽培し始めたのがきっかけだそうです。



泉州水ナス・昭和 27 年撮影 大阪府環境農林水産総合研究所提供



170410 俵をしめる道具

米俵を締める道具

由來する地区 男里

年代 昭和 20 年代まで使用

俵結機。米俵の中央をしめあげる道具。歯車の付いた滑車からのびるワイヤを、俵にまわし固定し、つぎにテコ棒を使い歯車をまわし、ワイヤを巻きあげます。特徴は歯車が緩まない構造。歯車のない旧タイプより使い勝手がよく人気があったそうです。



190202 からさ

豆類の脱穀に使う道具

由來する地区 信達市場

年代 昭和 20 年代まで使用

持ち主も子どもの頃、大豆を脱穀するのに使っていたおなじみの道具。ムシロにひろげた大豆を、からさの先を回転させて叩くが、コツがあるとか。仕掛けが「単純なのにうまくできている」と気づき「むかしの人はかしこいなあ」と感心するばかり。



170414 俵を綴じる道具

俵用の縫い針

由來する地区 男里

年代 昭和 20 年代頃まで使用

米俵の口を藁縄で綴じるとき

に使う道具。裁縫の針と同じ使い方をします。とがった先端が特徴で、数回突き刺しまとめて藁縄を通すときなどには都合の良い形状。竹製のものもあったそうですが、金属製の方がすべりがよく能率がよいので人気があったそうです。

190304 回転ごき

稲を脱穀する機械

由來する地区 男里

年代 昭和 40 年代頃まで使用

足ふみ式でドラムを回転させる。大人が脱穀する横で、子どもがペダルを踏んだり、稲を手渡したり…。当時は親子で作業する風景がみられたそうです。





180702 くらいぬけ

米を俵に入れる漏斗

由来する地区 男里

年代 昭和 20 年代頃
まで使用

? じょうごのよう
に俵の口に差込

み米を入れると、こぼすことなく俵に米を詰めることができます。名前の由来は、どれだけ米をいれても（喰らっても）筒抜け（ぬけてばっかり）。だから「くらいぬけ」。



190303 にない桶

農作物に水をやるときに使う桶

由来する地区 男里

年代 昭和 10 年代まで使用

? 1 斗 5 升の水が入ります。使いはまるで「曲芸みたいやった」とのこと。オウコで 2 個担ぐので、その重さは 60 kg にも。しかも水をやるのも担いだままで、足の指先で桶を器用に傾けていたとか。「ポンプのない当時、畑のあちこちでこの桶を担ぐ姿が見られた」そうです。



200208 蕨をたたく杵

手持ちの杵。2 個

由来する地区 信達牧野

年代 昭和 20 年頃から使用

? 持ち主が子どもの頃はちょうど「戦争の真っ最中」。靴も簡単には手に入らなかったそうです。代わりにいつも履いていたのは、蕨ぞうり。しかも「自分で作っていた」とか。この杵で蕨をやわらかくして、ぞうりを編んでいたとのこと。そもそもは持ち主の祖母が使っていたもので、60 年以上前のもの。今も家庭菜園のくい打ちなどで活躍しています。



201302 水切り大くわ

水路の管理に使う鍬

由来する地区 男里

年代 昭和 20 年代ごろまで使用

? 水路の管理につかう専用のくわ。地面を掘っただけの水路だった時代、用水を止めたり流したりする堰は土でした。「これだと一度にたくさんの土を扱え」、能率がよかったためです。土かべにつかう粘土をこねるときにも都合がよいとのこと。幅が広いので「かたまりがよくべしゃげる（つぶれる）んや」と教えてくれました。



201303 干しかえし

天日干しする麦の穂をさばく道具

由来する地区 男里

年代 昭和 20 年代まで使用

? 麦の穂を扱う道具。収穫した麦の穂を、庭先でムシロの上にひろげて干すときに使われました。特徴は鉄製の刃先。麦の穂は滑りやすく「木や竹の歯ではまともにすくえない」ので、鉄の刃先が必要だとか。名前のとおり、麦の穂を裏に返したりするのにとても便利な道具とのこと。

200801 フナの煮付け

父が毎年作っていた郷土料理

由来する地区 男里

年代 昭和 20 年代

? 持ち主の祖父の大好物。焼いたフナを天日干して、大きめの鍋に昆布と交互に敷きつめ、弱火で煮込みます。フナは近くの双子池で養殖している業者に分けてもらうとのこと。写真の網は銅線で作った自作の品で、天日干に使う網。徹夜でフナを煮込む祖父の姿は今でも忘れないとか。祖父がフナ



料理の知識



嗜好品

180304 たばこ盆

灰皿

由来する地区 男里

年代 昭和初期に販売

? 昭和初期に使われていたもの。当時家具屋さんで商品としても売られていました。キ

セルを愛用する人が多かったのか、このような昔ながらのたばこ盆が普及していたのでしょう。

の煮付を作っているのを眺めていたのは、昭和 20 年代。毎晩食後にフナの煮付をつまみながら熱いお茶をすする祖父の姿をよく覚えているそうです。今になって「どんな味なのか」気になっているとのこと。岡山県の玉野市に同様の料理があるのをテレビで見たので、「いつか食べにいつてやろう」と思案しているそうです。ちなみにこのフナの煮付、「どの家庭でも作る郷土料理ではなかったのではないか」とのことです。

衣服



200301 紋羽の足袋

足袋裏の底に紋羽を使用

由来する地区 樽井

年代 昭和初期か

? 持ち主夫妻の父の形見。裏地底に紋羽が使われており「我が家ゆかりの品」。家業のはじまりが、大正時代創業の紋羽工場だったからです。持ち主の知人で紋羽を実際に作っていた人に

よると、紋羽とは、「ぬき（横糸）にガラ紡糸を使う」のが特徴。「手紡ぎ糸」のように太く、ムラがある「ガラ紡糸」だからこそ、厚みのある丈夫で暖かい布を織ることができるそうです。樽井の紋羽は、足袋に加工され、全国各地に出回っていました。足袋裏の布地として最適だったためです。生産された紋羽の多くは、足袋製造業者が集まる埼玉県行田市へ出荷。写真の足袋も、そのひとつだったのかもしれませんが。戦時中は、原材料の統制と、織機の供出で思うように生産できなかったとのこと。終戦後は、生産再開に苦労したそうです。ガラ紡糸をつくるための「反毛機は自作し、ガラ紡機は岡崎（愛知県）まで買いに行った」とのこと。縦糸につかう綿紡糸の急騰や、頻繁におこる停電も悩みの種だったそうです。樽井の紋羽生産も、昭和30年代まで。「国産ナイロンの普及と紡績業の好況」が原因だとか。足袋の需要が激減した頃は、ちょうど「皆競って紡績をした」時代。樽井の紋羽工場も、紡績工場に次々とかわっていったそうです。



200901 泉州木綿の着物

母が嫁入りの時に持ってきたもの

由来する地区 男里・幡代 年代 昭和初期

? 持ち主の母の嫁入り道具のひとつ。昭和初期、持ち主の祖母が織り上げた布でつくった着物。自分で栽培した綿を糸に紡ぎ、村にあった「紺屋」で染めてもらい、祖母が織りあげたとか。当時、市内では木綿を栽培する農家が多かったそうです。そもそも泉州地域は、江戸時代から木綿栽培が盛んだったところ。当時、「泉州木綿」は一種のブランドとして名が通っていたようです。その伝統からか、昭和初期になっても我が子の嫁入り道具に、手作りの「泉州木綿の着物」を持たせたのかもしれませんがね。



190305 伸子張り

反物を干して

糊付けするための道具

由来する地区 男里

年代 昭和10年代まで使用

? 今で言う洗濯バサミ兼もの干し竿。着物を洗うとき、縫い目をほどいて反物にしてから洗っていました。

洗った着物は米粒でつくった糊で糊付けも。「洗ったばかりの着物は、とても痛かった」そうです。

201205 手織りの帯

持ち主の義祖母が織ったもの

由来する地区 和歌山県

年代 昭和初期以前か

? 手作りの浴衣の帯。持ち主の祖母が自分で織ったもの。よく見ると横糸には細く裂いた布などが使われています。



181501 げた・ぞうり・こっばり

こどもの履物。ぞうり

由来する地区 信達牧野

年代 昭和初期のもの

? 子ども用の履物で、昭和23年頃に持ち主が使い始めたもの。親子2代にわたって受け継がれ、持ち主の娘も使用。いずれもたたみ敷き。げたは結び目がアクセント、ぞうりは向側がつく冬用、こっばりは習い事（踊り）のために購入。今でも和装で出かける機会の多い持ち主にとって、思い出の品だそうです。

170402 シュロのみの

シュロの樹皮でつくった雨具

由来する地区 男里

年代 昭和初期に使用

? 雨カッパの悩みのたねは、通気性の悪さ。すぐに、汗だくになります。でも、この「シュロのみの」ならそんなことはありません。通気性抜群で、しかも防水性に優れ「現在の高級品にも負けない」と自慢する持ち主。昭和初期に実際に使っていたもので、しかも自作。その頃、自宅近くの川原にシュロの並木があり、そこから取ってきたシュロの皮を縄でとじあわせて作ったそうです。



170403 絵柄のあるガイシ

屋内照明用の碍子

由来する地区 おのさと 男里

年代 昭和 40 年代まで使用

? ガイシ（碍子）とは絶縁体の役割をはたす部品。むかしの民家は電気配線がむきだしのものがあり、このようなガイシが使われていました。昭和 40 年代に取壊した持ち主宅で使われていたもので、青い絵柄が気に入ったので大事にとっておいたものです。



が、終戦後は使われることもなくやがて、撤去されることに。太平洋戦争の記憶をとどめる石造物です。

180105 戦時中の国旗掲揚台

太平洋戦争中の隣組国旗掲揚台

由来する地区 男里

年代 昭和 14 年建立

? 太平洋戦争前に、地区の隣組で設置したもの。地区でも人通りの多い道に面して立てられたものです。



170408 鬼瓦

古民家の鬼瓦

由来する地区 男里

年代 享保七（1722）年に製作

昭和 40 年代まで使用

? めずらしいタイプの鬼瓦。持ち主宅の屋根両端（大

屋根の両端）についていたもので、取り壊した際に大切にしておいたもの。側面にヘラで書いた文字が 2 箇所あり、ひとつは「瓦ヤニへ」と職人の名前と思われるもの、もうひとつは「享保七…十月吉日」と書かれています。

181001 戦時中の防火水槽

空襲に備えるための防火水槽

由来する地区 岡田

年代 昭和 18 年設置

? 太平洋戦争時に、空襲に備え各地に設置された防火水槽。この地区にはあわせて 4 箇所ほどこのような防火水槽が設置されたそうですが、現在ものこるのはこのひとつのみです。



200521 和箆筒

土蔵にあったもの

由来する地区 樽井

年代 江戸時代か

? 土蔵に、以前からあったもの。「いつ頃のものか見当

た大きな扉に、細かく分かれた引き出し。縁や取手の金具は、いかにも年代を感じさせます。

200520 嫁入りの長持

土蔵にあったもの

由来する地区 樽井

年代 明治時代以前か

? 持ち主の家にある土蔵に、以前からあったもので、「明治時代よりも昔のものかも」とのこと。今も土蔵で大切に保管されています。



200601 樽井レンガ

施釉で刻印がある煉瓦

由来する地区 樽井

年代 大正時代

? ローマ字読みで「タルイレング」とスタンプされた煉瓦。小口には釉がかかり、今のものよりしっかりした作り。大正時代に操業していた樽井煉瓦製造所の製品。樽井煉瓦製造所は、『泉南郡志』によると、従業員は 10 人ほどですが、大正 4 年の生産量は 120 万個にのびります。この煉瓦をみつけたのは偶然のこと。家庭菜園を趣味にしていた持ち主が、「畑の囲いを作るのに」と、自宅前の廃材置き場から拾った煉瓦のうちのひとつだったのです。菜園をやめたときに、文字とロゴマークが入っていることに気づき、大事にとっておいたもの。その後、持ち主はこの煉瓦のことを、近所や知り合いに聞いてみたそうです。ある人は、「レンガ工場は樽井と岡田の間、海岸沿いにあった」とか、またある人は「前畑団地のところで粘土を取って、トロッコを敷いて運んでいた」とか。煉瓦生産は紡績業と併せ、一時市内で盛んに行われていたことを知りびっくりしたとのこと。



170401 まるあんどん

由来する地区 男里

年代 江戸時代以降に使用

? 別名「遠州行灯」。江戸時代

の茶人の小堀遠州が考案したといわれ、座敷用として作られた高級品。円筒形の障子が回転し、明るさを調節したり、風除けになるようになっています。あかりをともしところが 2 箇所あり、上側はロウソク用、下側は菜種油用でしょうか。引出しがあり、「ともしび」と呼ばれる火をともし芯が入っていたほか、菜種油をそそぐ「油差し」や、菜種油をそそぎ点灯するための「ひょうそく」もいっしょに保管されており、今すぐでも使えます。





181609 はだか電球

ガラス製のカサ

由来する地区 しんだち 信達市場

年代 50年ほど前まで使用



持ち主が子どもの頃、家で使っていたもの。「夜に空襲警報が鳴れば、黒い布をかぶせて使え」と言われていたことなど、当時の暮らしを思い出すそうです。



180503 火鉢

火鉢

由来する地区 つづらばた 信達葛畑

年代 昭和30年代まで使用



昭和30年代に灯油ストーブが普及するまで使われていたもの。当時の暖房器具はこの火鉢と寝るときに布団に入れる「コタツ」のみ。火鉢は、各家庭にいくつもあり、大きいものは家族が

集まる部屋に常に置き、小さいものは来客用で必要に応じて移動させていたそうです。また、当時は「へっついさん（かまど）」のある別棟の台所に家族が集まり、暖をとりながら、会話がはずむことが多かったそうです。



200802 箱火鉢

火鉢

由来する地区 男里

年代 昭和10年代



づくりが立派で、「欲しが人が多い」人気の火鉢とのこと。もっとも、昭和10年代の持ち主自身、使った覚えは一切ないそうです。戦時中、空襲を避けて泉南に引っ越してきた際に持ってきたもので、大阪市内で「家具店を営んでいた父」の思い出の品でもあります。



201202 コタツ

まめたん
豆炭をいれる暖房器具

由来する地区 信達市場

年代 昭和20年代



寒い冬には欠かせぬ暖房器具。といっても使うのは、布団で寝るとき。中にある小さな器に炭を入れ、布団の足元において

暖をとります。「家族に一つずつあった」とのこと。昭和10年代生まれの持ち主にとって懐かしい品です。

201201 石炭 ストープに使った石炭

由来する地区 信達市場 年代 昭和30年代



最近めっきり見るのがなくなった石炭。昭和10年代生まれの持ち主。石炭を見るたび石炭ストーブのことを思い出すそうです。消防団の詰め所に石炭ストーブがあり、若い団員は寒い中パケツ片手に石炭をもらいに行くのが日課だったとか。「ふと見つけたので」懐かしくなりとっておいたものです。



200105 アンカとコタツ

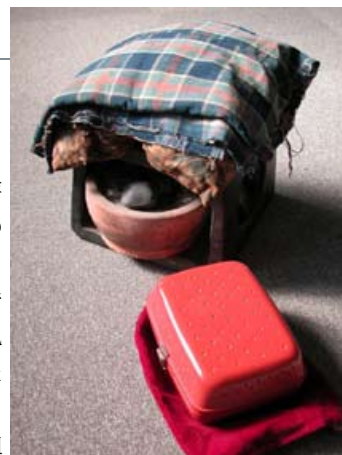
コタツと豆炭を入れるアンカ

由来する地区 男里

年代 昭和40年代まで



寒い冬、布団に入れる暖房器具です。コタツは囲いの内側にある火鉢に炭火を入れます。持ち主によると昭和25年ごろまでは使っていたとか。子どもの頃、兄弟で一つのコタツを使って寝ていたそうです。その後、アンカが登場。小型で、豆炭を石綿で挟み込む仕組みになっており便利に進化。昭和40年代になると、アンカも電気アンカに取って代わります。



202203 「やきすぎ」を使った煉瓦塀

三和煉瓦製造所製の「やきすぎ焼過」をつかった塀。

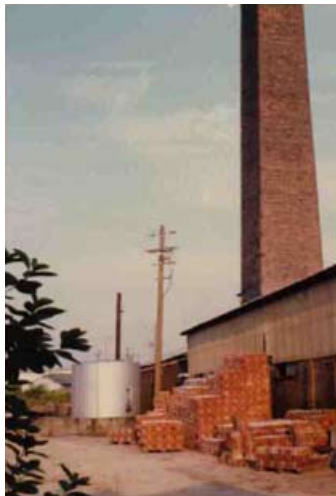
由来する地区 なこうじ 中小路

年代 昭和33年築造



持ち主が経営していた煉瓦工場の製品でつくったもの。出荷できない「やきすぎ（焼過）」が使われています。





202201 三和煉瓦製造所ゆかりの品

経営者による作業時の記憶。作業時の会社書類や備品など。

由来する地区 中小路

年代 明治41年創業・昭和47年廃業



泉陽煉瓦製造所として設立

され手以来、中小路地区で作業した煉瓦工場です。粘土は、おもに市内の「丘(丘陵)」から採掘。「長山からの場合、工場までレールを敷きトロッコで運んだ」とか。煉瓦は「手押し」と呼ばれる、木型による型作り。木型に「にこずな(離れ砂)」をまぶし、粘土を詰めて、水でぬらした竹バテで上面を平滑に仕上げます。これを乾燥させたもの(「素地」)で、窯で焼成してレンガとなる。ちなみに「刻印を押したのは耐火煉瓦のみ」とのことです。当時使っていた窯は「輪環窯」。「ホフマン窯」とも呼ばれ、当時一般的だった「登り窯」と比べ生産性が高い窯です。窯の内部は輪になっているため、同じ窯で「素地」を窯詰めしている一方で、焼成が可能になるためです。三和煉瓦にあったのは、平面楕円形で煙突を取り囲むタイプ。窯の高さは「2.5 mほど」、12 部屋ほどに区切られ、各部屋は「14 畳ぐらい」の広さ。各部屋の天井には、石炭を入れる小窓があり、当時は「近所の子どもが芋を焼いていた」こともあったとか。



ちなみに「輪環窯」は全国で 57 箇所ほど(昭和 30 年通産省調)。

焼き上げられた煉瓦は、「馬力(荷馬車)」で樽井駅まで運ばれ、船と貨車で大阪や和歌山に出荷します。「馬力」で運べるのは 1 台で 800 個ほど。駅へはレンガを運ぶ荷馬車が行列になっていたのかもしれない。戦時中も工場は忙しく、煙突が目立つので「機銃掃射や焼夷弾でえらいめにあった」とのこと。幸い 200 名ほどいた従業員には被害がなかったそうです。

大正時代、年間 480 万個の生産高を誇った市内随一の煉瓦工場も、昭和 45 年頃にはその生産も下火に。丘陵地の宅地化により、粘土をとる場所が減ってきたためです。「煉瓦づくりは基礎産業」という持ち主。日本の近代化を支えてきた家業への誇りは、ゆかりの品とともに「孫にすべて引き継いである」とのことです。



202001 樽井煉瓦製造所の煉瓦

作業時の記憶。製造所跡で採取した煉瓦。

由来する地区 樽井

年代 明治 37 年創業・昭和 20 年廃業



樽井煉瓦製造所は、昭和 20 年まで市内で作業していたレンガ工場のひとつ。ここでのレンガづくりの様子を、終戦当時子どもだった方が教えてくれました。工場があったのは、樽井の浜辺。座頭池脇のドンド川西側で、南海電車の線路を越えた海側にあたりま

す。創業は明治 37 年。きっかけは「地元の誘致」。レンガ作りに適した良質の粘土がとれる泉南地域でも、いちはやく生産をはじめた工場のひとつ。太平洋戦争中も「かなり忙しかった」そうです。レンガは木枠での型作り。同じ形のものを大量生産できるためです。作っていたレンガは、大まかに 2 種類。建物などに使う「赤レンガ」と、釉のかかった「へっついさん(かまど)」に使うものです。赤レンガは、上下面いずれかに

樽井煉瓦製造所の工場跡地で採取したレンガの刻印など。

「樽井乾式研究所」のタイルもあり(左上から 3 段目)

流れ星のような板の動いた跡がみられます。底のないタイプの型に粘土を詰めた後、「針金で粘土を削り落とす」ためです。「へっついさん」に使うものは、全面型仕上げ。外側になる面だけに釉がかかり、上下面に布目が見られます。原料となる粘土は、「長山あたり」から牛が引く荷車で運んでいた覚えがあるとのこと。レンガを焼くのは「のぼり窯」。トンネル状で長さは 30 m ほど。内部はちょうど「かくれんぼにぴったり」の大きさ。燃料は赤松で、工場敷地に「山積みされていた」とか。レンガは窯で「3 日間焼き続ける」ため、「薪割り職人さん」がいたそうです。

樽井煉瓦製造所では瓦を作ることもあり、「西園寺公望の別邸建築に使われた」とか。そう聞くとレンガはどこで使われたのかに気になるところ。「船で安治川の港(大阪市大正区)まで運んだ」その先は不明とのこと。レンガには、樽井煉瓦製造所の刻印やロゴマークがあります。これを手がかりに、どこで樽井のレンガが使われていたのかを探すと面白いかもしれませんね。



通信

170225 信達町農協の有線通信機

電話が普及する以前の有線通信機

(スピーカーのみ)

由來する地区 信達葛畑

年代 昭和30年代から昭和43年に使用

信達町農協が運営していた、有線放送のスピーカー。受話器を使えば、交換手が信達町内の各家にもつないでくれたそうです。昭和30年代に設置され、昭和43年まで使われていたもので、持ち主の方が今も記念に残しているものです。往診してもらう際など便利だと評判だったほか、電話が緑で交換手の女性と利用者の男性が結婚するきっかけになったこともあったそうです。



170701 黒でんわ

むかしの電話機

由來する地区 信達市場

年代 昭和40年頃に使用

この電話機を見る度に、持ち主は幼い頃を思い出すそうです。「おばあちゃんが電話をかけるときは、ダイヤルを回すのを手伝っていた」ことなど、たくさんの思い出が詰まった電話機だから、実家を取り壊すと聞いて「これだけは記念にとっておいた」とのこと。この想いは持ち主だけではありません。持ち主の兄弟にとっても、「懐かしい電話」でとり合いになるほどだとか。「この電話は、兄弟みんなのたからもの」これからも大切に保管するそうです。



暮らしの道具

170223 とますととびき

米の分量をはかる用具

由來する地区 信達葛畑

年代 明治時代以降に使用

米などを計る道具です。「とます(斗枰)」と呼ばれる丸い桶の中に米を入れ、「とびき」と呼ばれる丸い棒ですりきれいっぱいになれば、ちょうど一斗になります。



180102 蓄音機

レコードプレーヤー

由來する地区 男里 年代 昭和20年代に使用

持ち主が子どもの頃、この蓄音機で童謡を聴いたり、地区の盆踊りに使っていたとのこと。ゼンマイ式で、持ち運びに便利な品。針や、レコードもいっしょに保管してあります。



170404 かんかんばかり

計量具

由來する地区 男里

年代 昭和初期以降今も使用中

持ち主の兄が砂糖のはかり売りに使っていたもの。今も現役です。尺貫法からメートル法に置き換

ったのが昭和34(1959)年。両方併用できる移行期間がありました。その頃に製造されたものでしょうか。尺貫法とメートル法、いずれの目盛りも刻まれています。



180401 ヨウシキのこぎり

丸太を切るための大きなのこぎり

由來する地区 信達岡中

年代 昭和初期に使用

握り手を持ち2人で引っ張り合いながら使います。「ヨウシキ(洋式?)」と呼ばれていたそうで、持ち主の父が、昭和初期に市内の里山にある松の木などを切るときなどに使っていたもの。昭和初期、市内の里山ではマツタケがよく採れ、鉄道会社のガイドマップや、新聞に名産品として紹介されるほどでした。当時市内の里山では、枯れ木を伐採したり、「スクドカキ」と呼ばれる松の落ち葉をかき集めるなどして、地域の各家庭で使う燃料も集められていました。このような里山での作業が、結果的には里山の手入れになり、マツタケの豊作にもつながったとのこと。自然とうまく付き合っていたひと昔前の生活がうかがい知れます。



170407 ぼうちんぎ 計量具

由來する地区 男里 年代 昭和初期まで使用

戦時中、米俵(16貫=60kg)などをはかっていたそうです。棒の端についている鉤に米俵などを引っ掛け、紐の輪にさらに棒を通し二人で担ぎ、反対側に分銅をつけます。分銅をぼうちんぎの上でスライドさせ、水平になった所の目盛が重さを示します。紐の輪がふたつありますが、使い分けることによって、二十八貫(105kg)まで量れます。



180803 ちきり 計量具

由來する地区 五島市(長崎県)

年代 昭和40年代まで使用

大阪では「ちんぎ」。「ちきり」は長崎県での呼び名です。持ち主の父親が長崎県で魚屋さんをしていたときに使っていたもので、2貫目(7.5kg)まではかれます。ふるさとの町で「1貫あるけん10銭にしとくよ」と「ちきり」片手に威勢よく商いをする父や、イタズラをしたときなどに父に「ちきり」でたたかれたことなど、記憶のかたわらにいつもあった思い出の品だそうです。

180501 ちょんな

丸太の枝・樹皮をはつる道具

由來する地区 信達葛畑

年代 昭和30年代まで使用

別名チョウナ。材木の表面を削るときに使う道具。持ち主によると、明治時代から昭和20年代まで使っていたとのこと。当時市内の里山には、太さが1mもあるような松の大木が多く、民家の梁や「ウシキ(大



屋根を支える大きな梁)」につかうために切り出されていました。このチョンナは、山から切り出した松の木の皮を削り取るのに使ったそうです。



180201 孝行臼

老人のために食べ物すりつぶす臼

由来する地区 男里 年代 江戸時代以降

江戸時代の泉南地域の名産品。歯の弱ったお年寄りのために、食べものをすりつぶすための道具。『和泉名所図会』によると、鳥取ノ荘（阪南市）で採掘される和泉砂岩が有名で、石碑などに加工されていました。この孝

行臼も泉州の和泉砂岩製で『摂津名所図会』によると、当時の大坂における石材の間屋街「長堀の石浜」でも扱われていたとのこと。庶民にとって身近な品物だったのか歌舞伎・文楽の名作『新版歌祭文』のセリフに「孝行臼の石よりもかたい」とあります。

170415 蕨縄を作る機械

特殊な器具

由来する地区 男里

年代 昭和20年代頃まで使用

足踏式製縄機。足踏式のミシンと同じ動作で踏板を踏むと、蕨が撚りあわせられ、できた縄はドラムに自動的に巻き取られます。農作業に使う蕨縄はもとより、蛸壺漁に使う蕨縄（タコ縄）など、人に頼まれて作ることもあったとか。持ち主の方の思い入れが強いので、今も大切に残しているものです。



181610 やたて

筆つきで金属製

由来する地区 信達市場

年代 50年ほど前まで使用

181613 昔のマッチ

普及当初のマッチ

由来する地区 信達市場

年代 50年ほど前に入手

50年ほど前に人からもらったもの。もとの持ち主のおじいさんいわく「マッチが世の中に出回った頃のもの」とのこと。ラベルの絵柄は唐獅子牡丹で、「大日本住吉松田製」と記されています。



181608 アース

手動式の殺虫剤用ポンプ

由来する地区 信達市場

年代 50年ほど前まで使用

181612 ぼっこん

金属製の油さし

由来する地区 信達市場

年代 50年ほど前まで使用



170102 大田商店のとり

酒屋さんの貸徳利 由来する地区 岡田

年代 明治20（1888）年頃に使用

「大田商店」は明治20年頃創業の酒小売業を営む店。大田商店が酒のはかり売りする際に用いた「貸徳利」。当時のお酒はビン詰めされていませんでした。商いは手広かったようで、当時この徳利が泉佐野市域から岬町まで貸し出されていたそうです。

170406 ほうきとうきびのほうき

道具の製作技術と

素材の栽培方法

由来する地区 男里

年代 現在も製作

ほうきとうきび（別名ほうきぐさ）でつくった手作りのほうき。昭和初期、市内の各農家ではこのほうきをつくり出荷していたそうです。持ち主の方は素材の栽培から、ほうきの製造まですべて行います。目が細かいのでよく掃け、しかも長持ち。50年以上使っているものもあります。現在は息子さんがその技を受け継ぎ、毎年試行錯誤を重ねながら、仲間と一緒に「地域の伝統」を守っています。



190203 ほうき

ほうきとうきびで作った

自作のほうき

由来する地区 信達市場

年代 昭和40年代に製作

持ち主の父が作ったもので、ほうき草をしぼる「ツル（かずら）」は、

具合のよいものを使うのがコツだとか。ちなみに、このほうきに使われているのは、岬町まで採りにいってもらったもの。こだわりの材料があつてはじめて、よいものができるのは、今も昔も変わりませんね。



170217 漆器 椀黒

170219 漆器 膳黒



170218 漆器 椀赤



170221 漆器 膳赤



170222 漆器 重箱

170220 漆器 膳黒入子



180504 朱塗りの盆

由来する地区 信達葛畑 年代 明治時代以降に使用

170224 蒸籠

木製の蒸し器 由来する地区 信達葛畑

年代 明治時代以降に使用

毎年年末に欠かせぬ道具。親族が集まり餅つきをするとき、もち米を蒸すのに大活躍したとのこと。



170411 醤油作りの桶

モロミをすくう桶

由来する地区 おのさと 男里

年代 明治 18 年（墨書あり）から昭和初期まで使用

? 仕込んだもろみを、柄の付いた桶で「もろみ樽」から汲みあげ、先のとがった桶に移し変え、木綿袋に入れ醤油を絞ります。材料の小麦や大豆など、塩以外はすべて自家製。販売していた醤油より、おいしいので自分の家で使う分だけ仕込んでいたそうです。



190101 まくら

坊主枕 2 個

由来する地区 男里

年代 昭和初期か

? 応募当初、いつ誰が使っていたのか、まったくわかっていませんでした。ところが応募していただいた後に持ち主が補修していたところ、昭和 4 年の新聞紙が挟まっているのを発見。「祖父たちが使っていたものかも」と、持ち主夫妻は楽しそうに話してくれました。



181607 くぎの樽

「箱買い」の単位

由来する地区 信達市場

年代 50 年ほど前

? 納屋で大事に保管していたところ、蜂の巣に。「惜しかったが樽ごと焼いた」そうです。



180106 計算尺

乗除などを計算する器具

由来する地区 男里

年代 昭和 30 年代に使用

? 大学時代に購入したもの。徹夜の実験でとったデータをこの計算尺で計算したことなど、たくさんの思い出がつまっています。計算尺は、電卓が普及する前の計算機で、商工会議所認定の資格制度もあったほど普及していました。



200104 手回し式マッサージ機

持ち主の父が使っていたもの

由来する地区 おのさと 男里 年代 昭和初期か

? 持ち主の祖父が使っていたもの。ハンドルを回すと先端が振るえる仕組みです。

? 写真が趣味だった父が、戦後すぐに引き伸ばし機を購入したのがきっかけ。現像は近所の写真屋さんをお願いするが、焼付けは自分でこなっていたとのこと。自宅の風呂を暗室代わりに、自分でプリントしていました。



200203 モノクロ写真の焼付け道具

昭和 20 ～ 30 年代に使った道具

由来する地区 信達牧野 年代 昭和 20 年代以降に順次購入

180502 スキ 土壁を塗るときにつかう道具

由来する地区 しんたちつづらばた 信達葛畑

年代 昭和 30 年代まで使用

? 土壁の壁塗りをする左官屋さんの道具。別名「才取り棒」。高所で壁塗りしている人に、壁土をすくい投げて渡す道具。使っていたのは、持ち主の祖父や父。親族が家を新築する際や、風雨で崩れた壁を補修するときに使っていたもの。今は自宅の補修は工務店に頼みますが、ひとむかし前は親類近所が集まって修理をしていたのかも知れませんが。



180305 5 玉そろばん そろばん 由来する地区 男里

年代 昭和 30 年代まで使用

? 持ち主の母が使っていたもの。同じものが 2 つあります。ひとつは実家で大正時代から使っていたもの、もうひとつは昭和 30 年代に持ち主の兄から母への贈りもの。兄が母に 5 玉そろばんを贈ったのは、昭和 30 年代。4 玉そろばんが一般的な時代で、5 玉そろばんを手に入れるのが難しかったため、予備として贈ったのかもしれない。



180801 5 玉そろばん そろばん

由来する地区 おのしろ 信達大苗代

年代 昭和 40 年代に購入

? 使い慣れた 5 玉そろばんを買い置きしておこうと、当時 160 円で購入。当時の初任給が 2 万円程度。かなり高い買い物だったそうです。



180901 5 玉そろばん そろばん

由来する地区 堺市

年代 昭和 20 年代まで使用

? 持ち主の父が使っていたもの。同じ大きさのものが二つあり片方はほぼ新品。持ち主自身、「理由はよくわからない」とのことです。



200202 今まで使ったカメラ

由来する地区 信達牧野 年代 昭和 20 年代以降

? 写真が趣味の持ち主。高校生の時にはじめたとか。当初はモノクロでしたが、その後はカラーリバーサル。デジカメを使う今も当時の機材を大切に保管しています。



200205 押寿司の道具

木枠・おひつ・寿司桶

由来する地区 信達牧野

年代 昭和 20 年代

? 持ち主の祖母のもの。毎年祭りになると、バランでくるんだ押し寿司を作ってくれたとか。サバ、エビ、ハモとバランをめくるたび「どれが出るか楽しみだった」と



か。今から 60 年ほど前の祖母の味は、現在は持ち主の妻に引き継がれているとのこと。持ち主の家では、今も祭りの時期になると押し寿司を作っているそうです。

200206 ミンチの機械

餡を作るのに使用

由来する地区 信達牧野

年代 昭和 30 年代まで使用

? もともと肉をミンチにする道具。あるときは羊羹の餡を練るために、あるときは味噌作りの際に



大豆をつぶすのに用いた道具。もともと持ち主の祖母が使っていたもの。和泉砂川駅前にある持ち主の店では、戦前「砂川名物栗羊羹」を販売していたとか。祖母はこの機械で、羊羹の餡になる小豆をすりつぶしていたそうです。戦後は一転、味噌作りに使うようになったとか。蒸した大豆を、この機械ですりつぶし、大量の味噌を仕込んでいたそうです。



201001 あられ煎り

あられをつくるための網

由来する地区 信達牧野

年代 昭和 50 年代まで使用

? 昭和 50 年代まで使っていたもの。あられ煎りは、昭和 10 年代生まれの持ち主にとって、子どもの頃「おばあちゃんがあられ

を焼いてくれた」思い出の品。持ち主の祖母は、かたくなった鏡餅を水につけ、細かく碎き、乾燥させてから煎ったそうです。今残るのは、持ち主の家で何度も買い換えているうち、いちばん新しいもの。持ち主の子どもも、これであられを「焼いてもらっていた」そうです。この頃になると材料は、硬くなった鏡餅でなく、あられ用に搗いた「のしもち」。細かく切って保管しておき、食べる分だけその都度「焼いた」そうです。子どもの頃の思い出と、いつか使ってみようとの思いからいまでも大切に保管しています。

201002 井戸のつるべ

自宅の井戸で使用していたもの

由来する地区 信達牧野

年代 昭和初期まで使用

? 持ち主の家にある井戸で使っていたもの。信達牧野地区は「よく水が湧く」ところだそうで、今も自宅の井戸を使っているとのこと。現在は電動ポンプでくみ上げているので、このつるべもお役ごめん。



200207 寿司桶

木枠・おひつ・寿司桶

由来する地区 信達牧野

年代 昭和 30 年代まで使用

? 持ち主の祖母が使っていたもの。「バラ寿司（ちらし寿司）」を作るときにつかったそうで、「大家族やったので、これだけおおきいのがいったんや」との理由も思わず納得の大きさ。



201207 弁当箱

明治時代から昭和までの弁当箱 3 種類

由来する地区 信達市場

年代 明治時代以降のもの

? 持ち主にとって懐かしい思い出のある弁当箱。かごのように編んだものは、持ち主の親の世代のもの。

小さいように感じますが、「ふたにもご飯を詰めればかなりの量」だとか。アルマイト製の深いものは、持ち主が子どもの頃に使っていたもの。農作業など「とにかく腹が減る」手伝いが多く、大きな弁当箱が当たり前の時代。薪集めなどは、未明に家を出るため、朝食に半分、昼に残りを食べることもありました。「子どもは加減ができないので、朝にあらかたたべてしまう」ことも。それを見ていた大人が、昼食時に自分の弁当を分けてくれたのが「とてもうれしかった」そうです。アルマイト製の浅いものは、昭和 50 年代から使い始めたもの。「ご飯の食べやすさにびっくりした」そうです。そこが浅いので、軽く箸でご飯が切り分けられ、しかもちょうど一口で食べられる量になるためです。



201204 尺貫ばかり

メートル法と尺貫法併記

由来する地区 信達市場

年代 昭和初期以前

? 尺貫表記の目盛りになっています。「そもそも何に使ったのかよくわからない」とのこと。もともと納屋にあったもの。「尺貫表記のバネばかりは珍しい」と思い保管しています。ちなみに当時、身近なところで尺貫法が「生き残っていた」とか。持ち主が子どもの頃「メートルばかり」と呼んでおり、タオルは「百匁のタオル」と尺貫法で区別したそうです。



201301 かべ土さし

土壁を塗るときにつかう道具

由来する地区 男里

年代 昭和 20 年代頃まで使用

? 別名、「才取り棒」。土かべを塗りこむ左官屋さんの道具です。手元でこねたスサの入った粘土をこの棒でからめとり、数m上の人にほうり投げるためのもの。職人さんの「見事な」仕事ぶりを楽しそうに話してくれました。





201206 かよい帖

掛売りのときに使う帳面

由来する地区 信達^{しんたち}市場

年代 昭和 20 年代以前

? ひとむかし前、買い物には欠かせぬもの。この帳面はいわば「お財布」。商店で買い物をすると、店の人がこの帳面に品目を書き記します。その場では代金は不要。支払いは毎月月末にまとめておこないます。「この帳面を片手に、子どもがお使いに行ってい

たこともあった」とのこと。商売を営んでいた持ち主のおじの家に残っていたものを譲ってもらったそうです。



201601 ガンタ 大きな木材を扱う道具

由来する地区 市内 年代 不明

? 昔の民家新築に「これが欠かせぬ道具」。カギのついた棒で梁などの大きな木材を扱うのに便利。

201605 鎌

湿地の草刈などで使用

由来する地区 市内 年代 不明

? 湿地などの草刈に使用したものの。今でも現場で重宝しているとのこと。



201604 石臼 味噌作りなどに使う

由来する地区 信達^{しんたち}金熊寺

年代 不明

? 石臼は上下セットで残っているのは「まずない」とのこと。苦労してそろえたとか。



201606 鳥かご

ニワトリを飼うための道具

由来する地区 市内 年代 不明

? 竹で編んだもの。むかし「チャボのけんか」という遊びあったとか。昭和初期のおとなの娯楽で決まった日に広場で開催されていたそうです。



? 仕事先で「もったいない」と譲り受けたもののばかり。泉南市内のものが大半です。

財産



200201 太平洋戦争時の戦時国債など

戦時報国債券・戦時貯蓄債券・貯蓄券

戦時郵便貯金切手・引揚者特別交付金国庫債券

由来する地区 信達^{しんたち}牧野

年代 昭和 20 年以前

? 引揚者特別交付金国庫債券は、戦争中に中国で暮らしていた持ち主一家のもの。数種類ある戦時国債はずっと家にあったものだそうです。



輸送



180703 ちんちょう 樽を運ぶための道具

由来する地区 男里^{おのさと} 年代 昭和 20 年代まで使用

四斗樽などの大きな樽、横にして転がすことが

? できない漬物樽などを運ぶときに使います。紐の両端につけ樽のタガに掛け、棒を通し二人で担ぐと楽に運べたそうです。

180705 オウコとサラカンゴ 物を運ぶための天秤棒

由来する地区 男里 年代 昭和 20 年代まで使用

? 田畑への客土、ため池の泥を肥料として田畑にまいたりするときに使いました。オウコは、適度なしなりのあるムクの木。サラカンゴは、強度のある籐^{とう}でつくられています。

180802 牛のくら

牛に荷物を運ぶための道具

由来する地区 市内 年代 不明

? はじめて目にしたときは「これなんや?」。牛のくらだと知り、愛着がわき大切に保管しているそうです。



190102 柳行李

衣服の荷造り用に購入

由来する地区 男里

年代 昭和 40 年代から使用

? 持ち主が大学進学するとき、下宿に衣類を送ったときにつかったもの。当時は引越しに段ボール箱をつかうことはなく、衣類は行李につめて運送されるのが一般的。これらの行李は今も現役。通気性がよく、かるくて丈夫なためです。



181605 鉄輪の荷車

車輪が木製で、外側に鉄板まくタイプ

由来する地区 信達市場

年代 昭和 20 年代まで使用

? 牛に引かせる荷車の車輪。通称「てつわ」。車輪の外側に鉄板がまいてあるので「丈夫で重宝した」とのことです。

190201 うしのくつ

ひづめ保護のための履物

由来する地区 信達市場

年代 昭和 20 年代まで使用

? 荷物を運搬する牛に、ひづめをいためないようにはかせるもの。持ち主の父が作ったもので藁を束ねて「さっと作っていた」とのこと。持ち主自身は作り方を知らないそうです。なんともいえない魅力的なデザイン。持ち主は「ぜひとも作り方を知りたい」とのことです。



201603 荷車の置物

鉄輪の荷車でつくった置物

由来する地区 市内 年代 不明

? 仕事先で「もったいない」と譲り受けたもののばかり。片方だけが集まったので置物にしてみたそうです。

180303 陵印

歴代天皇の陵墓参拝記念印

由来する地区 男里

年代 大正時代末に収集

? 持ち主の祖父が集めたもの。宮内庁が管理する歴代天皇の陵墓には、それぞれ参拝記念の印「陵印」があります。明治天皇の陵墓まで押印しているので、大正時代に集めたものではないかとのことです。



180706 むかしの雑誌

関東大震災直後発行の被災地写真集など

由来する地区 男里

年代 大正から昭和 30 年代

? 最近、屋根裏にあるのを発見。よくみると関東大震災の特集号や、終戦直後の大相撲再開など、気になる記事ばかり。持ち主自身の体験を思い出したり、当時の暮らしなど、昔の思い出を思い出すきっかけになったそうです。

170409 牛の道具

牛に鋤を曳かしたりするための道具

由来する地区 男里

年代 昭和 20 年代頃まで使用

? トラクターなどの機械が普及するまで、牛は欠かせぬ存在。「しりかけ」は畑を耕すため、鋤を固定するため、「くら」は荷物を運ぶためのもの。使い込んだ自慢の道具で、牛の肩に付ける「くびき」は磨かれたように光っています。



170425 免許証

運転免許証

由来する地区 男里

年代 昭和 13 年発行

当時の免許制度は、小型、普通、特殊の三種類。

? 小型の場合、750cc 以下（4 サイクル）の四輪自動車を運転できました。

170901 父の免許証 運転免許証

由来する地区 堺市

年代 昭和 11 年交付

? 持ち主の父の遺品。これを見た母が若い頃の父の姿を思い出したそうです。「ハイカラな人」で、戦前に自動車販売業を営んでいたことや、当時珍しかった自動車を所有し運転していたことなど、母の語る父の話は、はじめて知ること。持ち主にとって、父の人柄をより深く知るきっかけとなった「大切なもの」です。



180302 御集印帳

神社仏閣の参拝記念印

由来する地区 男里

年代 大正時代から

昭和 20 年代後半まで収集

? 四国八十八箇所や西国三十三ヶ所などを巡るとき、巡礼者はそれぞれの寺院で印を押してもらいます。いずれもすべての寺院の印を集めてあります。これらは持ち主の祖父が集めたもので、最も古いのが大正 12 年、もっとも新しいものが昭和 28 年です。

200204 明治時代の手紙

明治時代の郵便物。信達町長宛

由来する地区 信達牧野

年代 明治時代

? 切手収集が趣味の持ち主。古切手の店で、ふと目に付いた封書に「市場村」と書いてあるのに気づき購入。貼られている切手だけでなく、宛名にこそ「値打ちがある」自慢のコレクション。



180701 基石

囲碁の基石

由来する地区 男里

年代 昭和 20 年代に入手

? ハマグリ貝の貝殻と那智黒石を丹念に磨いて作った基石です。昭和初期に使われていたもので、「ダシナ」と呼ばれる人たちの風情ある生活が想像できます。

あそび

180804 バラモン風

長崎県五島列島の風

由来する地区 五島市（長崎県）

年代 昭和 20 年代に製作

? 長崎県出身の持ち主自慢の風。バラモン風は長崎独特のもので、持ち主の父が作ってくれたものとのこと。各家の父親が子どもに作って与えることが多く、「ブーン」となるような音を立てながら空に上がります。タコ糸にガラス片をつけて糸の切りあいをしたり、人の背丈ほどもある大きな風を日が暮れるまであげたり、ふるさとの思い出がたくさん詰まった風です。



181003 むかしの観光パンフレット

泉州地域の観光案内兼電話帳

由来する地区 市内

年代 昭和初期発行

? 若い頃、大阪市内の古書店で見つけ購入したもの。『大日本職業別明細図』は、購入希望者多数のため抽選になったほど。ご家族にとっては悩みの種。持ち主夫婦は、これらのパンフレットをめぐって「捨てる捨てない」の騒動になったことも。



181206 切符のコレクション

昭和 27 年以降の JR・南海の切符

由来する地区 市外

年代 昭和 27 年以降、平成初期まで

? 250 枚以上が年代順に整理されています。国鉄に勤務していたとき、新人駅員に「たくさんあった切符の種類を覚えてもらうため」に集めたのがきっかけとか。昭和 20 年代発行の紙製の通勤定期券などのほか、昭和 30 年代の切符が一覧できる『乗車券類の見本』があります。

まつり

200303 樽井のミニやぐら

飾り用のミニチュア

由来する地区 樽井

年代 昭和 21 年新調

? 座敷に飾るためにつくったもので、持ち主によると「樽井にはこのようなミニやぐらが少なくとも 3 台以上ある」とのこと。子どもの背丈ほどの高さですが、つくりは立派。丁寧につくられた彫り物に、太鼓もちゃんと載せられています。「戦後すぐの物不足の時代に、よくもこれだけ材料を集めたものだ」と感心しながら話してくれました。最近、欠けた彫り物や木肌を洗う「大修理」も済ませたところ。当初飾りとして作られたこのやぐらも、最近は「祭りの時期になると、孫が外に引き出して遊んでいる」と苦笑い。



201501 男里のミニやぐら

飾り用のミニチュアやぐら

? 由来する地区 男里 年代 平成 17 年頃から製作中
「ただ今夫婦で製作中。乞うご期待」とのことです。

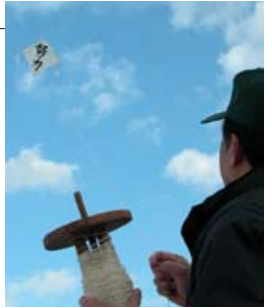
201801 バラモン風とけんか風

長崎県五島列島の風

由来する地区 長崎県

年代 昭和 20 年代の知識

? 五島列島特有の風。持ち主の方にとっては、懐かしいふるさとの遊びです。けんか風の特徴は、空中で自由に向きを変えられること。「糸の切りあい」をして遊ぶため、「上下左右自在に動かせる」とのこと。風が程よい高度になったところで、まず張った糸を緩めると、風は下へと急降下。間をおいて糸を勢いよく引くと、宙返りして、再び高度をあげていきます。風揚げしながらの会話は、もっぱらよく飛ぶ風の作り方。「遊びのいちばんの醍醐味は、自分で工夫する過程とちゃうか」との意見。今は何でも売っている便利な時代なのですが、肝心なものまでは売っていないのかもしれない。



191401 なにわいろはかるた

なにわ言葉を題材にしたもの

由来する地区 岡田

年代 昭和 60 年発行

? 「守りまひよ大阪弁」をモットーに今も活動中の「なにわことばのつどい」が発行。持ち主も参画していました。ユーモラスなイラストにも思わずニンマリ。「せんなんことばも だいじに せんなんから」泉南独自の言葉を集めた「せんなんいろはかるた」もつくってみませんか。



171001 力石

力だめしの道具

由来する地区 男里

年代 幕末から昭和 20 年代に使用

? この石は「石メ」と呼ばれる種類で、重さは 40 貫（150kg）。両手で抱え太ももの上にのせ胸まで担ぎ上げて、最後に肩に載せます。「かたげごっこ」と呼ばれ、雨の日や農作業の合間に地区の青年会場で盛んに行われていたそうです。なごやかな雰囲気の中、地区の青年たちが力比べに興じた様子が想像できます。

181401 やぐらのこまの座卓

大苗代地区の旧やぐらのものを転用

由来する地区 信達大苗代 しんたちおのしろ 年代 昭和初期製作平成 8 年に引退

? この座卓をかこんでの会話は当然、やぐらの話。まずはコマは楠や桃といった木材を硬さに応じて使い分けている話から。なかでも、7 年間中断していた地区の祭礼を再興するまでの話は印象的。昭和 40 年代、持ち主をはじめとする同世代の若者が地区の人達を説得し再興にこぎつけたとのこと。以来、地区の祭礼は毎年行われています。そのとき現役だったやぐらのコマでつくったのが、この座卓です。



芸術



170502 砂川音頭・砂川おどりの振付

盆踊りの振り付け

由来する地区 信達大苗代・市場・牧野・岡中・金熊寺・六尾・童子畑・葛畑・楠畑

年代 昭和 27 年ごろに創作

170307 オモテを見るよりウラを見よ

太平洋戦争中の世相を反映した水彩画

由来する地区 信達市場

年代 昭和 18 年頃に創作



持ち主が小学校 6 年生のとき、昭和 18 年ごろの作品。我が子に「生きた証」として残している水彩画です。自分の画才を誇示するためではありません。用紙の裏側をよく見てほしいからです。題して「オモテを見るよりウラを見よ」。戦時中の世相を象徴する作品です。

170504 山野音頭の振付 盆踊りの振り付け

由来する地区 信達牧野 年代 近・現代に伝わる振付



191601 お雛さんの掛け軸

押し絵の雛人形を差し込む掛け軸

由来する地区 岡田

年代 明治 20 年代ごろに入手

金屏風などの背景が描かれた掛け軸に、押絵を貼り付けた珍しいお雛さん。明治

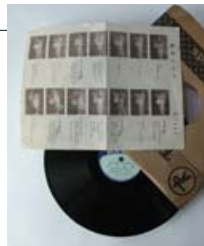
時代、持ち主の曾祖母が成人の祝いにもらってから、代々大切に受け継がれているもの。持ち主の家では、毎年この掛け軸を飾り家族写真を撮るのが恒例の行事。孫娘が子どもの頃は、娘と孫の雛人形も一緒に並べたそうで、それを目当てに訪れる親戚もあったとか。この掛け軸は、家族の集うきっかけであり、毎年撮られた写真とともにたくさんの思い出がまつまっているそうです。



170413 すいか市の鈴 合図に使う鈴

由来する地区 男里 年代 昭和初期に使用

夏の夕暮れ時、家々に「すいか市」の開催を知らせてまわる鈴。すいか市とは、各農家が地区の人々にせり売りするもので、昭和初期まで行われていました。持ち主は、この鈴の涼しげな音色を聞くと、子どもの頃の思い出やむかしの風景を思い出すようで、今まで大切に残しているものです。



170501 砂川音頭・砂川おどりのレコード

むかしの盆踊りのレコード

由来する地区 信達大苗代・市場・牧野・岡中・金熊寺・六尾・童子畑・葛畑・楠畑

年代 昭和 27 年ごろに創作



信達町誕生を契機に、住民が作った地域の特徴ある歌と踊り。持ち主の母が発起人。当時、盆踊りで踊られていた山野音頭（三夜おどり）にかわる新しいものをつくろうと、町内の名所旧跡を歌いこんだもの。



170503 山野音頭の録音テープ

伝統ある盆踊りの録音テープ

由来する地区 信達牧野

年代 明治生まれの方による演奏（昭和 56 年録音）



信達地区の盆踊りは山野音頭（三夜踊り）と呼ばれる地域性のあるものでした。このテープは、持ち主がすたれゆく伝統的な山野音頭を記録し後世へ伝える必要性を強く感じ、録音したもの。演者はいずれも明治生まれの方で、毎年やぐらの上で歌い演奏していた人達です。



201701 ピアノピース

楽譜（クラシック・ピアノ用）

由来する地区 信達市場

年代 昭和 8 年以降発行のもの。昭和 10 年代以降現在まで使用



ピアノピースとは、ピアノの楽譜のこと。持ち主が子どもの頃に使っていたものです。人生の大半を音楽とともに暮らして

きた持ち主。「音楽から大事なことをたくさん教わった」そうです。まずは基本の大切さ。音楽では何よりも楽譜を「きちんと読める」ことが欠かせないそうです。基本をマスターしていないと「必ず頭打ちする」からです。次に心をこめること。子どもの頃からピアノを「心で弾くこと」で、多くの機会を得たそうです。そして何よりも楽しいと思えること。厳しい指導が当たり前の世界で、声楽の先生だけは別格だったとか。世間話などを織り交ぜながらの楽しく的確なレッスンはとても新鮮で、次のレッスンをいつも楽しみにしていたそうです。

昔話

170203 はちかはたのいいつたえ

市内のむかし話

由来する地区 信達楠畑・童子畑・葛畑

年代 安土桃山時代のできごと

織田信長や豊臣秀吉と対抗した根来寺の僧兵たち。大坂方面から攻めてくる織田・豊臣方を意識して、峠沿いの村々に、僧兵を配置したという言い伝えがあります。根来寺に協力したのは八ヶ所の村々。それぞれの村に「畑」が付くことから「はちかはた」といわれたそうです。ここ泉南では、風吹峠沿いの堀河（畑）、葛畑、童子畑、楠畑がそれにあたります。

170204 右門吉のいいつたえ

市内のむかし話

由来する地区 信達葛畑

年代 延享三（1746）年頃のできごと

葛畑の住人で、藤原右門太郎ともいい、江戸時代に紀州との境界争いで命を落としました。紀州藩役人と山地境界の話し合いをした際、境界をめぐる一歩も引かなかったことから、その場で交渉相手の役人に竹槍でつかれ命を落としたそうです。相手が紀州藩士であっても、臆することのなかった右門吉の言い伝えはいまも語り継がれています。

170201 お菊のいいつたえ

市内のむかし話

由来する地区 新家

年代 慶長 20（1615）年頃のできごと

慶長 20（1615）年、大坂夏の陣のとき。紀州から、泉南の山々を越え、大坂城内へ密書を運んだお菊。散策ポイントとして親しまれる「お菊松」は、お菊が敵の目を欺くために、男装したといわれる場所。物語の主人公、お菊は豊臣秀次の娘。「この話を後世に伝えてほしい」。情報を提供していただいた方のつよい願いです。

結婚

200522 婚礼の袱紗ふくさ

代々伝わるもの
由来する地区 樽井
年代 江戸時代か



絹地に金糸銀糸もつかった見事な刺繍。大きいもの(写真左)は嫁入りのとき長持にかけられるもので、小さいもの(写真右)は結納のときに用いるとのこと。



戦争

200701 おじたちの遺品

勲章・勲記、従軍記章など

由来する地区 岡田

年代 昭和10年代から昭和40年代



いずれも太平洋戦争に出征した、持ち主のおじたちのもの。そもそも、これらの遺品を大切に保管していたのは赤井ヨシエさん。持ち主のおばで、勲章を受けたおじたちのきょうだいにあたる方です。ヨシエさんは「きょうだいの供養をかかさなかつた人」。



墓参りにいくのも大変だろうと思い、持ち主夫妻が「車で送ろうか」と声をかけても、決して車に乗ろうとはしなかったとか。「戦争で亡くなった人の墓に参るのだから、車では行けない」と、必ず自分の足で墓に向かったそうです。勲章の箱をよく見ると汚れが目立ちます。持ち主は汚れた箱を見て「箱をあけては毎晩眺め、きょうだいのことを思い出していたのかも」と思ったとのこと。持ち主夫妻が、これらの遺品を預かったきっかけは、ヨシエさんが亡くなったため。「だれかが大事に持っていないと、おじたちがうかばれない」という気持ちから引き取りました。「当時は、皆が志願しろと言われた時代。皆が勢いで兵隊になった。でもその人たちは皆死んでしまった」と持ち主は教えてくれました。

181002岡田地区での戦争の記憶

防空壕への非難や、艦載機による空襲など

由来する地区 岡田

年代 太平洋戦争当時



自宅に掘った防空壕で聞いた終戦を告げるラジオ放送、岡田地区における艦載機の被害や、墜落したB29の話など、当時子どもながらに強烈に記憶しているそうです。

181102 戦時中の松脂集めの記憶

樽井地区での松脂集めの様子

由来する地区 樽井

年代 昭和18・19年の記憶



燃料増産のため行われた松脂集め。小学生だった頃、樽井の浜辺や長山丘陵の松林で、松に「V」字の切れ込みをいれ、学年単位で集めたそうです。戦争中は「校門をくぐった覚えがありません」そうです。

170416 陸軍の夏服

旧日本軍の夏服上着

由来する地区 男里

年代 昭和18年に支給

170420 図囊ずのう

旧日本軍の将校用カバン

由来する地区 男里

年代 昭和20年に入手

170418 体操靴たいそうか

旧日本軍の訓練用体操靴

由来する地区 男里

年代 昭和18年に支給

170423 磁石

旧日本軍の方位磁石

由来する地区 男里

年代 昭和18年に支給



持ち主が太平洋戦争のときに、陸軍に入隊していたときのもの。軍隊での経験談や「いまとはまったく違う世の中だった」当時の出来事を語る持ち主にとって、ひとつひとつが当時を物語る大事な記録です。



180704陸軍少年通信兵学校のベルト

旧日本軍のベルト

由来する地区 男里おのさと

年代 太平洋戦争時のもの

190204 ゲートルまききゅはん 巻脚絆しんだち

由来する地区 信達市場

年代 昭和10年代末に使用



父が足に巻く姿を覚えているそうです。布地がとてもしっかりしており、とても60年以上前のものとは思えません。



170417陸軍の冬服

旧日本軍の冬服上着

由来する地区 男里

年代 昭和18年に支給

170422水筒

旧日本軍の水筒

由来する地区 男里

年代 昭和18年に支給

170419 手套てとう

旧日本軍の手袋

由来する地区 男里

年代 昭和18年に支給

170421懐中電灯

旧日本軍の懐中電灯

由来する地区 男里

年代 昭和18年に支給

170424帶革たいかわ

旧日本軍のベルト

由来する地区 男里

年代 昭和18年に支給



191201 大正時代の海軍の記録

第一次大戦当時の参戦日誌など

由来する地区 男里 年代 大正時代持ち主の父の遺品

父が亡くなってから偶然見つけたもので、くわしい由来については誰も知らないものばかり。父が海軍にいた頃の話をする事がなかったためです。『航海筆記』と題したノートには、大正3年から乗船した軍艦「千代田」での業務などが絵入りでびっしりと書かれています。



180103 和泉砂岩の鍾馗さん

お守り

由来のある地区 男里

年代 不明（江戸時代か）

鍾馗さんとは、もともと疫病を防ぐ鬼神。今から1300年ほど前の中国で、病床の玄宗皇帝の夢枕に現れ疫病をはらったことに由来します。日本では厄除けのお守りとして、古い民家で見ることができます。よく見かけるのは瓦と同じ材質ですが、この鍾馗さんは和泉砂岩製。持ち主の家を今も守っています。

180104 おかげ参りのお社 お伊勢参りの御幣をまつた祠

由来する地区 男里

年代 江戸時代以降に建立

おかげ参りとは、江戸時代に民衆の間で盛んだった「伊勢詣」のこと。持ち主の自宅にあるもので、言い伝えによると、江戸時代に持ち主宅に「御幣」がおりたのがきっかけで、それ以来お祀りしているとのこと。当時この地区に数軒の家に「御幣」がおりたそうで、それらの家々では、「御幣」をお祀りし、おかげ参りの集団がくると、食事を出したり宿として自宅を提供したりしたそうです。



181101 明治時代の軍人手帳 地区で珍しかった海軍での記録

由来する地区 樽井 年代 明治30年代

持ち主の祖父が、海軍にいた頃のもの。乗船した艦船の名前や寄港地などが記録されています。持ち主にとって祖父は「まじめ一本」な人。その祖父にならい、持ち主もがんばってきたとのこと。当時地元でもめずらしかった海軍での記録は、「まじめ一本」だった祖父を思いおこす大事な記録だそうです。



181203 兵役時の手帳

入隊後の軍隊教育でとったメモ

由来する地区 市外

年代 昭和17年

181202 軍人手帳

太平洋戦争時の陸軍のもの

由来する地区 市外

年代 昭和17年から昭和20年

181204 除隊時の寄せ書き

部隊解散のときのもの

由来する地区 市外

年代 昭和20年

181205 兵役時の記憶

太平洋戦争時、陸軍通信隊としての4年間の体験

由来する地区 市外 年代 昭和17年から昭和20年

徴兵制により陸軍に入隊していたときのもの。「本土防衛」のため駐屯した鹿島灘での話や、終戦後の米軍への兵器引渡し作業など話はずきません。



181201 函囊 太平洋戦争時の陸軍下士官の携帯品

由来する地区 市外 年代 昭和18年から昭和20年

信仰

170202 げんろくさん

氏神さんの祠

由来する地区 信達葛畑

年代 宝暦二（1752）年

静かな竹林の斜面に、ひっそりとたたずんでいます。堀河地区の人に氏神さんのひとつとして親しまれている「宮さん」で、通称「げんろくさん」。正月にはお参りに、毎年2月には餅まきをするそうです。石灯籠には「宝暦二（1752）年…」の年号のほか、持ち主の先祖の名前が刻まれています。



200519 土蔵の御幣

土蔵の上棟幣

由来する地区 樽井

年代 明治42年

持ち主の土蔵に大事に保管されているもの。子どもの背丈ほどもあるおおきな御幣で、この土蔵の上棟式のときにたてた御幣。そのうちのひとつには「明治42年11月15日」と記されています。





202204 煉瓦のお社

氏神さんの祠
由来する地区 中小路
年代 不明
(創業当時からか)

? 三和煉瓦製造所の「お稲荷さん」。台座と参堂に煉瓦が使われています。台座は自社製の赤煉瓦を、参道には以前工場で活躍していた「輪環窯（ホフマン窯）」で用いられたものをそれぞれ使っているとのこと。



200523 江戸時代の打敷と戸帖

自宅の仏壇に正月と盆のみに使う

由来する地区 樽井 年代 江戸時代か

? 持ち主の家に代々伝わるもの。刺繍も色鮮やか。打敷を入れる木箱には「嘉永四年」と墨書きされています。

儀式や習慣



170214大正 15 年の安産祝儀控

祝儀の受領簿
由来する地区 信達市場
年代 大正 15 年の記録

170215昭和 3 年の初雛祝儀受納控

祝儀の受領簿
由来する地区 信達市場
年代 昭和 3 年の記録

教育

170211 信達尋常高等小学校の
級長任命書

尋常高等小学校の級長任命書

由来する地区 信達市場

年代 昭和初期発行



? 昭和初期、いまの小学校にあたるのが尋常小学校でした。信達町当時の場合、義務教育にあたる尋常小学校と、2 年制の高等小学校が



170209 信達尋常高等小学校の通信簿

尋常高等小学校の通信簿

由来する地区 信達市場

年代 昭和初期発行



170210 信達尋常高等小学校の学習證書

尋常高等小学校の修学證書

由来する地区 信達市場

年代 昭和初期発行



併設されていました。当時、級長や副級長は先生からの指名制。選ばれることは優等生の証でした。

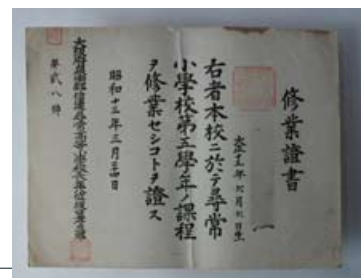
190907 大正時代の通信簿など

通信簿、卒業証書、賞状など

由来する地区 信達牧野

年代 大正時代に発行

? 納屋にあるのを偶然見つけたもの。持ち主の父のものです。



170212 信達尋常高等小学校の修業証書

尋常高等小学校の修学証書

由来する地区 信達市場

年代 昭和初期発行



170213 岸和田高等女学校の
委員任命書

高等女学校の委員任命書
由來する地区 信達市場
年代 昭和初期発行
高等女学校とは、尋常小学校

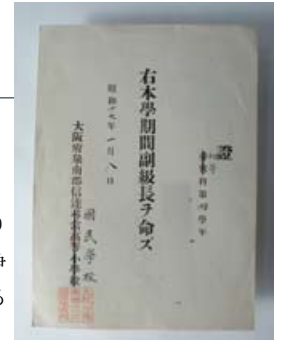
? 卒業後に入学することができ、4～5年制でした。現在の泉南市内の住人は岸和田高等女学校（現在の府立和泉高校）へ入学していました。

当時の岸和田高等女学校の写真

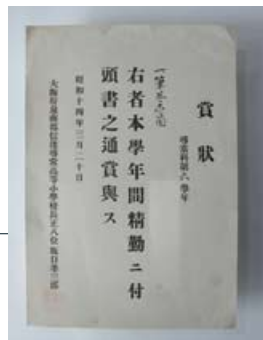


170308 尋常高等小学校から国民学校に
国民学校の副級長任命証
由來する地区 信達市場
年代 昭和17年に発行

? いずれも現在の小学校にあたります。ただ、当時は太平洋戦争中。なぎなたの授業など世相を反映する教科があったそうです。



170226 信達尋常高等小学校の賞状皆勤
賞状
由來する地区 信達市場
年代 昭和初期発行



170227 信達尋常高等小学校の賞状精勤
賞状
由來する地区 信達市場
年代 昭和初期発行



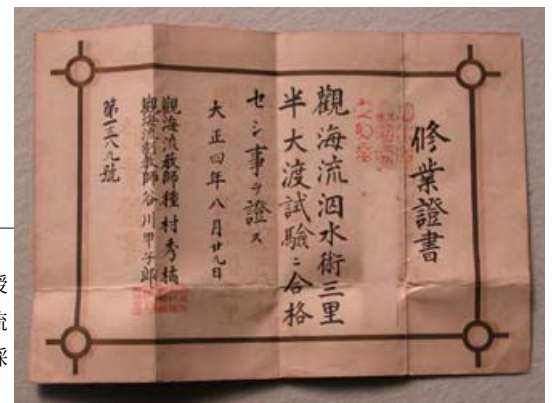
170228 信達尋常高等小学校の賞状
品行方正学業優等
賞状
由來する地区 信達市場
年代 昭和初期発行

? 「皆勤」は欠席がなかった場合に、「精勤」は欠席が3日以内の場合に授与されます。当時は賞状だけでなく、えんぴつや筆箱などもあわせて授与されていました。

200524 観海流沔水術の修業證書 賞状

由來する地区 樽井 年代 大正4年発行

? 岸和田中学校卒業した持ち主の父のもの。「むかしの岸中は夏になると海で水泳の授業ばかりだった」と岸中の卒業生である持ち主が教えてくれました。ちなみに観海流とは古式泳法のひとつ。江戸時代に三重県で発祥しました。旧制中学では水泳の授業に採用する学校がおおかったそうです。



みなさんをお持ちの「せんなんのたからもの」を募集しています

■せんなんのたからものとは？■

泉南市に関係するもので
持ち主が大切だと思い
活用したいとつよく思うもの

■応募にあたって■

持ち主の方からの応募が必要です

■応募・問合せ■

泉南市埋蔵文化財センター
590-0505 泉南市信達大苗代 374-4
電話 072-483-6789
メールアドレス maibun@city.sennan.lg.jp

■たとえばこんなものです■

- ・民家などの建造物
- ・工芸品
- ・植物や動物
- ・衣食住に関わる伝統的な習慣
- ・伝統的な衣服や道具
- ・むかしから伝わる踊りや音楽
- ・むかしばなしなどの記憶
- ・地域の特産品などの作り方などの知識
- ・地域の歴史などの知識
- ・ふるい写真や映像など

